

防災教育 活用事例集

在宅時において災害が発生した時に、
児童生徒が自分の命を守る避難行動がとれるように

～学校での防災教育の学びを、「個別の避難計画」に活用する～



高知県教育委員会事務局 特別支援教育課
学校安全対策課

はじめに

子どもたちは、1日のうちの3分の2は、学校ではなく自宅等で過ごします。南海トラフ地震の発生は、時と場所を選ばないため、子どもたちが在宅時に災害に遭う確率は高いといえます。

高知県の防災教育の目標には、「自分を守りきる力（助かるための力）の育成」を設定し、「いつどこにいても、一人でいる時でも、自ら危険を回避し、生き抜くために必要な知識や行動力、そして精神力」を子どもたちに身に付けさせたい力として掲げています。

各特別支援学校（学級）では、児童生徒の実態に応じて、「自宅からの避難場所及び避難経路の確認」や「家庭での防災対策（備え）」「避難場所での過ごし方」などについて、児童生徒が保護者と共に確認し、避難行動や防災対策を考える取組を行っていただいているところです。

各自治体でも、災害対策基本法に基づき、災害時における避難行動要支援者への避難支援が十分に行われるよう、「個別の避難計画」の作成が進められています。「個別の避難計画」には、対象者が災害時に必要としている支援内容や、自宅からの避難場所及び避難経路等を記入するようになっており、在宅時における発災時の適切な避難行動につなげることをねらいとしています。

そこで、学校の防災教育の学習内容を家庭と共有し、各家庭が「個別の避難計画」を作成する際にこれらの情報を活用することにより、家庭の防災意識の向上や防災対策が進むことが期待されます。特に、自治体や地域の支援者と「個別の避難計画」の記載内容を共有することにより、特別支援学校（学級）に通う児童生徒の障害特性等を理解していただき、在宅時からの避難行動について適切な支援が受けられることも考えられます。このことは、発災時の安否確認や日頃からの関係づくりにもつながります。

この事例集では、防災教育の学びを「個別の避難計画」に結び付ける内容や家庭への啓発方法等について、県内外の実践事例を紹介しています。

各特別支援学校（学級）においては、この事例集をヒントとし、児童生徒が在宅時において災害が発生した時にも自分の命を守ることができるよう、家庭と連携した防災教育の一層の展開をお願いします。

目次

防災教育の学びを、「個別の避難計画」に（フロー図）	1
---------------------------	---

「個別の避難計画」について	3
---------------	---

家庭と連携した防災教育 実践事例

・ 授業実践例	11
・ ワークシート	23
・ 保護者や地域及び関係機関との連携	37
・ 「個別の教育支援計画」への記入	52

家庭への啓発（アプローチ）事例

・ 「家庭連絡票」「避難場所等調査票」等の記入枠の設定	56
・ 防災参観日の設定	58
・ 防災教育だよりの発行	84
・ 家庭での防災対策（備え）	92
・ 「ヘルプカード」携帯の提案	95

(フロー図)

防災教育の学びを、「個別の避難計画」に

在宅時における発災時の適切な避難行動を！（防災教育の学びを「個別の避難計画」に）

「個別の避難計画」とは



「個別の避難計画」は、災害時における避難行動要支援者への避難支援が十分に行われるよう、対象者が災害時に必要としていることや避難場所等をまとめたものです。

災害対策基本法に基づき、市町村が対象者を支援しながら計画の作成を促し、適切な避難行動に結び付けることを目的としています。

<「個別の避難計画」に記載する主な事項>

- ・身体の状態など、支援が必要な理由
- ・避難の時に自分ができること
- ・支援してほしい内容
- ・避難場所／避難経路
- ・避難の時に持っていくもの
- ・避難の手助けをする方 等



家庭での 防災



- 学校での防災教育の内容の理解
- 家庭連絡票への記入

- ・自宅からの避難場所、避難経路
- ・通学路からの避難場所

- 日頃からの備え（家族で話し合う）

- ・避難場所・避難経路の確認
- ・非常持ち出し品、備蓄品の準備
- ・家具の固定等の防災対策

- 地域の避難訓練への参加

- ・自助、共助の経験（自分で行えること、支援をお願いすることの確認）
- ・「ヘルプカード」の活用



在宅時において
災害が発生した時に
児童生徒が自分の
命を守れるように

連携



特別支援学校（学級） における 防災教育

- 「家庭連絡票」の内容の確認

- ・自宅からの避難場所、避難経路
- ・通学路からの避難場所

- 「個別の教育支援計画」への記入

- ・外部機関の支援の内容記載→「個別の避難計画」作成の有無、避難場所、支援者、医療機関等の情報

- 防災の授業・避難訓練

- ・災害で起こること
- ・避難行動の大切さ
- ・いつ、どこにいても、1人でいても、自分で命を守る行動を（学校にいる時、校外活動中、登下校中、在宅時）



「個別の避難計画」の作成



自主的で適切な避難行動

安否確認

日ごろからの関係づくり



家庭への啓発
（アプローチ）



- 「家庭連絡票」の記入枠の設定

- ・自宅からの避難場所・避難経路等

- 防災参観日の設定

- ・親子合同避難訓練、学習会

- 防災教育の情報発信

- ・防災だよりの発行
- ・連絡帳によるお知らせ
- ・学級懇談会での話題

- 家庭と連携した防災の授業

- 「自宅で1人でいる時に地震にあったらどうする？」

- ・家族への防災対策の聞き取り

- ・学習したことを、家族防災会議（話し合い）で共有

- 「ヘルプカード」携帯の提案



地域の支援者による支援

自宅所在の市町村・地域



「避難場所の確認」「避難経路の確認」「家庭での防災対策（備え）」については、在宅時に被災したときに、子どもたちが命を守る鍵となる大切な内容です。これらの内容を防災教育に取り入れ、家庭と共有することができれば、家庭が「個別の避難計画」を作成する際に活用することができます。こうしてできた「個別の避難計画」は、市町村や地域の支援も加わり、避難行動要支援者の自主的で適切な避難行動につながります。この流れは、子どもたちが自分の命を守ることにつながる大変重要な取組です。

「個別の避難計画」について

<ポイント>

★「個別の避難計画」とは、

どのようなものでしょうか。

事 例

高 知 市

(ホームページより抜粋)

※各市町村によって、取組や様式は異なります。

災害時における避難行動要支援者の

避

難

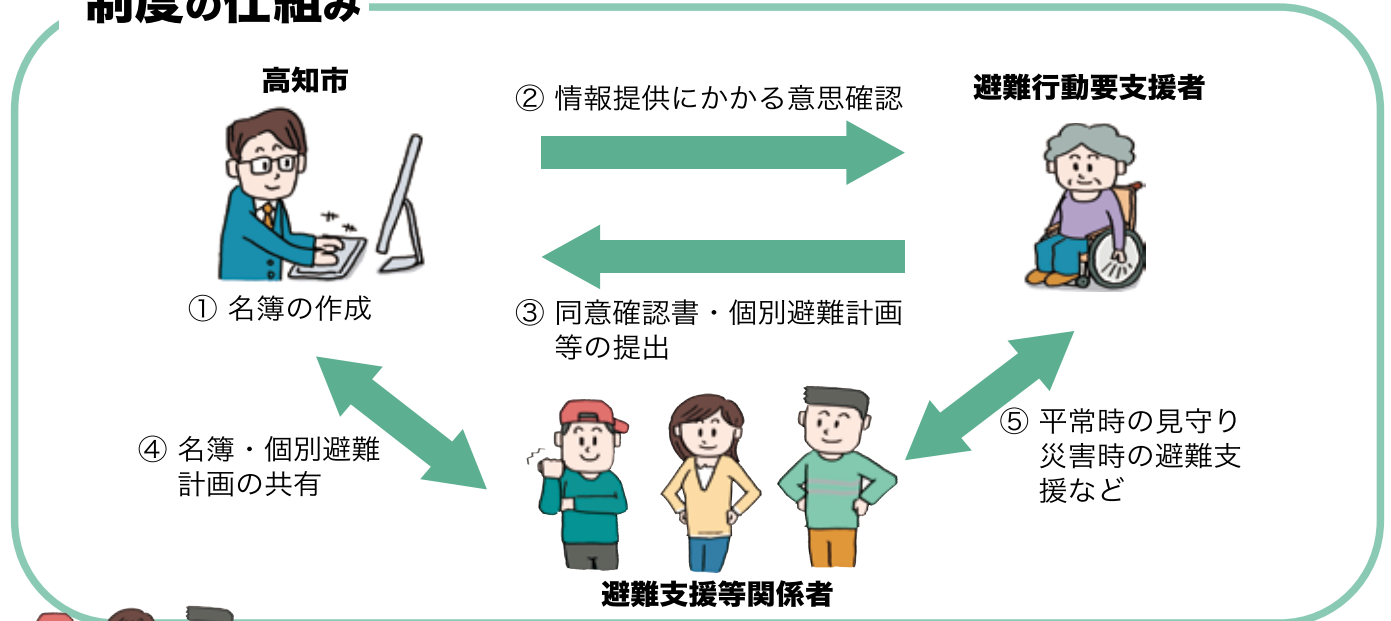
支

援

について

高知市では、災害時に備えて、「避難行動要支援者」の方の情報を、自治会や自主防災組織などの地域の関係者で共有する取組を進めています。

制度の仕組み



地域での取組が必要な理由

行政の力だけでできることには限界があります

災害が発生した時は、行政による救助等の支援が行われますが、行政も被災するため支援が届くまで一定の時間がかかってしまいます。

そのため、行政による「**公助**」だけでなく、自分の命を自分で守る「**自助**」、地域のつながりを活かした支え合いである「**共助**」が必要です。

地域でのつながりが大切です

いざという時に助け合うためには、周囲にどのような方がいるのか地域の中でお互いに知っておくことが必要です。

日頃から挨拶や声がけをすることから始め、「顔の見える関係づくり」をしておくことが、災害時にも助け合える地域づくりにつながります。

取組の流れ

1

ご本人の同意確認及び
個別避難計画の作成

名簿の情報等を避難支援等関係者へ提供して構わないか、**市からご本人へ**意思確認を行います。

このとき、個別避難計画の様式も一緒に送付し、**可能な範囲で**記載してもらいます。

※ 避難支援等関係者については、右ページをご参照ください。

2

避難支援等関係者への
名簿及び計画の提供

同意いただいた方の名簿と、ご本人が作成した個別避難計画を、**避難支援等関係者の方にお渡しします。**

3

自宅訪問等による
個別避難計画の作成
・ 詳細の追記

地域の方が中心となって、ご本人の自宅を訪問し、計画が作成されていない場合は、**共に計画を作成します。**

計画が作成されている場合は、**追記すべき事項がないか確認します。**

4

個別避難計画の共有

③で作成した個別避難計画を、ご本人や避難支援等関係者、行政や消防等で**共有します。**

5

訓練や見守りを通した
計画の更新

共有した計画を、**避難訓練や日頃の地域の見守り活動**を通じて見直します。

いざというときにお互いに助け合うことのできる地域へ

用語解説

避難行動要支援者名簿 : 要支援者が一覧になっている名簿

個別避難計画 : 要支援者ごとに作成する避難支援の計画

避難支援等関係者 : 避難支援等の実施に携わる関係者

避難行動要支援者名簿

高知市では、以下の要件に該当する方を避難行動要支援者名簿に掲載することとしています。

ただし、入院・入所中の方や、自力での避難が可能であると申し出た方は、名簿に掲載されません。

- ① 要介護認定3～5を受けている方
- ② 身体障害者手帳1・2級（総合等級）を所持する方
- ③ 療育手帳Aを所持する方
- ④ 精神障害者保健福祉手帳1級を所持する方
- ⑤ 日常生活において、部分介助及び全面介助を要する在宅難病患者
- ⑥ 上記以外で特に支援の必要があり、支援を希望する方

名簿 の内容

- 氏名 ●生年月日・年齢 ●性別 ●住所
- 電話番号その他の連絡先 ●支援を必要とする理由
- 利用中の介護・障害福祉事業所 ●個別避難計画作成の有無

情報提供先

避難支援等関係者

- ① 地区民生委員児童委員協議会
- ② 高知市社会福祉協議会
- ③ 地区社会福祉協議会
- ④ 自主防災組織
- ⑤ 町内会（自治会・自治公民館等を含む）
- ⑥ 高知市消防局
- ⑦ 高知市消防団
- ⑧ 高知県警察
- ⑨ その他市長が認めた団体

同意がある場合のみ



居宅介護
支援事業
所

介護・
障害福祉
事業所

指定相談
支援事業
所

※ 情報提供先には災害対策基本法により秘密保持義務が課せられています。
また、情報の提供にあたっては、個人情報管理等について定めた協定を、市と締結しています。

名簿や計画の情報の活用方法

名簿や計画に記載されている情報は避難支援の実施のほか、避難支援体制の構築のためにも活用することができます。

日常の見守り

地域活動への
参加呼びかけ

防災訓練

よくある質問

Q. 個別避難計画を作成したら、必ず助けてもらえますか？

A. 支援者の方も自分の安全確保が第一です。そのため、必ずしも避難支援等が受けられるとは限りません。

要支援者の方も、自分の命は自分で守るという意識を持ち、日頃から周囲の方と積極的にコミュニケーションをとることを心掛けましょう。

Q. 要件に該当しないので、名簿に載っていませんが、支援が必要な方がいます。

A. 名簿に掲載すること等への意思確認を行いますので、市までご連絡ください。

Q. 支援者になりましたが、責任や義務が発生しますか。

A. 避難支援等実施者（避難の支援をする方）は、あくまでも善意と地域の支え合いの精神により避難支援等を行うものであり、災害時に避難支援等ができない場合において、法的な責任が伴うものではありません。ご自身やご家族の安全を確保した上で、できる範囲での避難支援等をお願いします。

Q. 名簿や計画の情報提供に同意しなければどうなりますか。

A. 災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に、生命や身体を守るために特に必要があるときは、避難支援等に必要の限度で、同意・不同意にかかわらず、避難支援等関係者へ名簿や計画の情報が提供されます。

お問い合わせ先 高知市 防災対策部地域防災推進課

〒780-8571 高知市丸ノ内1丁目7-45 あんしんセンター3階

TEL:088-823-9040 FAX:088-823-9008 E-mail:kc-080300@city.kochi.lg.jp

記入例

個別避難計画

年 月 日作成

フリガナ	コウチ タロウ	1	あらかじめ記載がありますが、 連絡先の記載がない場合は ご記入ください。
氏 名	高知 太郎		
住 所	高知市〇〇×丁目△-△△		
電話（FAX）	自宅 ×××-×××× 携帯 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇 FAX		
メールアドレス	abcdefg@mail.com		
同居人の有無	有（ 1人） 無	家族構成など	夫婦2人

※情報を提供することについて同意を得た上で、記入してください。

	緊急時の連絡先①		
フリガナ	コウチ リョウマ		
氏 名	高知 竜馬	本人との 関係	長男
住 所	高知市△△町×丁目〇〇-〇〇		
連 絡 先	×××-××××-××××		

	緊急時の連絡先②		
フリガナ	コウチ ハナコ		
氏 名	高知 花子	本人との 関係	長女
住 所	高知市△△町〇丁目×-× 〇〇マンション		
連 絡 先	△△△-△△△△-△△△△		

	避難の手助けをする方（避難支援等実施者）①		
フリガナ	●●ジシュボウサイソシキ カイチョウ ボウサイイチロウ (団体名及び代表者でも可)		
氏 名	●●自主防災組織 会長 防災 一郎		
住 所・所在	高知市●●×丁目△△△		
連 絡 先	△△△-△△△△		

	避難の手助けをする方（避難支援等実施者）②		
フリガナ	(団体名及び代表者でも可)		
氏 名			
住 所・所在			
連 絡 先			

定期的に利用 している医療 機関や介護・ 障害福祉事業 所の連絡先	居宅〇〇ケア（担当：渡辺） 電話：088-〇〇〇-△△△△	備考
	△△病院（担当：鈴木） 電話：088-×××-△△△△	備考
	電話：	備考

ケアマネジャーさんや
相談員さんの名前を
ご記入ください。

避難の時に持っていくもの

- | | | | |
|--|---|-----------------------------------|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 薬、お薬手帳 | <input checked="" type="checkbox"/> メガネ | <input type="checkbox"/> 補聴器 | <input type="checkbox"/> 入れ歯 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 杖 | <input type="checkbox"/> 車いす | <input type="checkbox"/> シルバークーラー | |
| <input type="checkbox"/> その他（ | | | |

裏面もご記入ください

身体状況など支援が必要な理由	避難の時に自分でできること
<input checked="" type="checkbox"/> 要介護・要支援の認定を受けている 【要介護状態区分： 要介護 4 】 <input type="checkbox"/> 障害者手帳 4 ご自身の体の状況やできることについてご記入ください。 【障害名： 】 <input type="checkbox"/> 難病の特定医療費等の支給を受けている <input type="checkbox"/> 医療機器の装着や使用等をしている 【 <input type="checkbox"/> 人工呼吸器 <input type="checkbox"/> 酸素 <input type="checkbox"/> 透析 】 <input type="checkbox"/> 一人で立つことや歩くことができない <input checked="" type="checkbox"/> 音が聞こえない（聞こえにくい） <input checked="" type="checkbox"/> 物が見えない（見えにくい） <input type="checkbox"/> 危険なことを判断できない（できにくい） <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 腰が痛むことがある ）	<input type="checkbox"/> 自力で避難場所まで行く <input checked="" type="checkbox"/> 玄関まで出ていく <input checked="" type="checkbox"/> その他 （メールを見て避難の ） 準備をする
5 日常生活での困りごと等をご記入ください。	その他（支援してほしい内容など） ・耳が遠いので、災害時は窓をたたいて知らせしてほしい ・今は玄関まで出ていけそうだが、1年後は分からない ・腰の痛みがあり、最近はお風呂や不燃物のごみ出しに時間がかかる

避難場所・避難経路等	（地震の場合）	〇〇マンション
	（風水害の場合）	〇〇センター

6

地震や風水害が起こった場合、どこに避難する予定かご記入ください。

7

避難場所までの道順をご記入ください。

家庭と連携した防災教育 実践事例

・授業実践例

<ポイント>

★児童生徒がいつ、どこで地震に遭っても、命を守る行動がとれることを目指す実践が必要です。

各学校の災害想定や地域の状況に応じて、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を教職員で共有し、発達段階ごとに実施できる持続可能な防災教育体制を確立させましょう。

(参考) 県立山田特別支援学校ホームページ

【単元系統表】参照

事 例

高知県立山田特別支援学校

(單元系統表、指導略案)

			山田特別支援学校「生活単元学習における防災学習」単元系統表									
めざす児童生徒像			○自然災害などの危機に際して主体性を持って自らの命を守り抜くための態度や能力を身につけた児童生徒									
学部 学年 指導10項目			小学部1. 2年		小学部3. 4年		小学部5. 6年		中学部1. 2. 3年		高等部1. 2. 3年	
備	1	地域におこる災害を知る	目標	◎支援を受けながら、南海トラフ巨大地震が来ることを理解する。(生ノイ 安全, 国) ◎緊急地震速報の意味を理解する。(生ノイ 安全, 国)	◎支援を受けながら、南海トラフ巨大地震がきた時の状況を知る。揺れや津波は何回も繰り返し襲ってくることを知る。(生ノイ 安全, 国) ◎緊急地震速報を理解する。(生ノイ 安全, 国)	◎支援を受けながら、南海トラフ巨大地震がきた時の状況を理解する。揺れによる建物損壊、火災、津波等、地震の危険を理解する。(生ノイ 安全, 国) ◎緊急地震速報を理解する。(生ノイ 安全, 国)	◎南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを理解する。火災、津波、土砂災害等の二次災害が起こることを理解する。(理ノＢ 地球・自然, 国) ◎緊急地震速報の仕組みを知り、有効に活用できる。(社ノイ 公共施設, 国)	◎南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを理解する。二次災害も含め自分の住む地域や学校、通学路に発生する危険を知る。(理ノＢ 地球・自然, 国) ◎緊急地震速報の仕組みを知り、有効に活用できる。(社ノイ 公共施設, 国)				
			単元名 (時間数)	◆南海トラフ巨大地震がきたら、どのようなのかを知ろう(1) ◆地震による災害を知ろう(2) ◆緊急地震速報ってなんだろう(1)	◆南海トラフ巨大地震がきたら、どのようなのかを知ろう(1) ◆地震による災害を学ぼう(2) ◆緊急地震速報の意味を学ぼう(1)	◆南海トラフ巨大地震がきたら、どのようなのかを知ろう(1) ◆地震による災害を学ぼう(2) ◆緊急地震速報の意味を学ぼう(1)	◆南海トラフ巨大地震がきたら、どのようなのかを知ろう(1) ◆地震による災害を学ぼう(2) ◆緊急地震速報の意味を学ぼう(1) 略案	◆南海トラフ巨大地震がきたら、どのようなのかを知ろう(3) 略案 ◆地震による災害を学ぼう(3) 略案 ◆緊急地震速報の意味を学ぼう(1)				
			目標	◎支援を受けながら、非常持ち出し品について知る。(生ノコ 社会の仕組み, 国) ◎支援を受けながら、学校の備蓄倉庫の場所や備蓄品の内容を知る。(生ノコ 社会の仕組み, 国)	◎支援を受けながら、非常持ち出し品について知る。(生ノコ 社会の仕組み, 国) ◎支援を受けながら、学校の備蓄倉庫の場所や備蓄品の内容を知る。備蓄品がなぜ必要なのかがわかる。(生ノコ 社会の仕組み, 国)	◎支援を受けながら、非常持ち出し品について学ぶ。(生ノコ 社会の仕組み, 国) ◎支援を受けながら、学校の備蓄倉庫の場所や備蓄品の内容を知る。(生ノコ 社会の仕組み, 国) ◎備蓄品がなぜ必要なのかがわかる。(生ノコ 社会の仕組み, 国)	◎非常持ち出し品、備蓄品の理解をする。(社ノウ 地域の安全, 職家ノＢ 衣食住, 国) ◎非常持ち出し袋の準備や夜間の地震対策を家族と一緒に考え準備する。(社ノウ 地域の安全, 職家ノＢ 衣食住, 国)	◎非常持ち出し品や備蓄品の必要性や活用方法の理解を進める。(社ノウ 自然環境, 家ノＢ 衣食住, 国)				
			単元名 (時間数)	◆非常持ち出し品にはどんなものがあるだろう(1) ◆備蓄品にはどんなものがあるだろう(2)	◆非常持ち出し品について学ぼう(1) ◆学校や家庭の備蓄品について学ぼう(2)	◆非常持ち出し品について学ぼう(1) 略案 ◆学校や家庭の備蓄品について学ぼう(2) 略案	◆非常持ち出し品について学ぼう(1) ◆学校や家庭の備蓄について学ぼう(2)	◆非常持ち出し品について学ぼう(1) ◆学校や家庭の備蓄について学ぼう(2)				
え	2	必ず助かるための知恵と備え	目標	◎支援を受けながら身の回りのことで自分のできることを増やす。(生ノア 基本的生活習慣, 道徳, 国) ◎学校生活において安定して過ごすことができる時間を増やす。(特活, 国)	◎身の回りのことで自分のできることを増やす。(道徳, 国) ◎学校生活の様々な集団の中で安定して過ごすことができる。(特活, 国)	◎身の回りのことで自分のできることを増やす。(道徳, 国) ◎学校生活や集団生活の中で簡単な手伝いができる。(特活, 国)	◎集団生活のルールやマナーを理解して行動できる。(社ノア 社会参加, 保体ノＨ 保健, 総合, 国) ◎自分にできる手伝いは積極的に行う。(社ノア 社会参加, 職家ノＢ エ 快適な住まい)	◎集団生活のルールやマナーを理解して行動できる。(社ノア 社会参加, 保体ノＩ 保健, 総合, 国) ◎自分にできる手伝いは積極的に行う。協力して生活を送る。				
			単元名 (時間数)	◆集団生活を覚えよう(1)	◆集団生活に慣れよう(1)	◆集団生活ができるようになろう(1)	◆集団生活ができるようになろう(1) 略案					
る	3	みんなで助かるための備え	目標	◎揺れを感じたり緊急地震速報を聞いた時、支援を受けながら、頭を守る姿勢がとれる。(生ノイ 安全, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を聞いた時、支援を受けながら、揺れがおさまるまで静かに頭を守る体勢で待つことができる。(生ノイ 安全, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を聞いた時、支援なしで、揺れがおさまるまで落ち着いて身を守る体勢で待つことができる。(生ノイ 安全, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、どこにいても「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所を探して、身を寄せ頭を守る姿勢がとれる。(社ノウ 地域の安全, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、どこにいてもすぐに安全な場所を探して揺れから身を守る行動ができる。(社ノウ 自然環境, 特活, 国)				
			単元名 (時間数)	揺れから身を守る体勢を覚えよう(1) 略案	揺れから身を守る体勢を覚えよう(1)	揺れから身を守る体勢を身につけよう(1)	揺れから身を守る体勢を身につけよう(1)	揺れから身を守る体勢を身につけよう(1)				
命	4	揺れから自分を守る	目標	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、支援を受けながら高い所に急いで避難できる。(生ノイ 安全, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、支援を受けながら落ち着いて高い所に急いで避難できる。(生ノイ 安全, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、できるだけ一人でより高い所に急いで避難できる。(生ノイ 安全, 道徳, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、一人でより高い所に急いで避難することを覚える。支援を受けながら高台や避難経路を確認しておくことができる。津波に関する標識を覚える。(社ノウ 地域の安全, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、一人でより高い所に急いで避難することを覚える。支援を受けながら海拔表示や標識を覚え、自分の生活圏での高台や避難経路を確認しておくことができる。(社ノウ 自然環境, 特活, 国)				
			単元名 (時間数)	◆津波避難行動を学ぼう(1)	◆津波避難行動を理解しよう(1)	◆津波避難行動を身に付けよう(1)	◆津波避難行動を身に付けよう(1)	◆津波避難行動を身に付けよう(2) 略案				
	5	津波からの迅速な避難	目標	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、支援を受けながら高い所に急いで避難できる。(生ノイ 安全, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、支援を受けながら落ち着いて高い所に急いで避難できる。(生ノイ 安全, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、できるだけ一人でより高い所に急いで避難できる。(生ノイ 安全, 道徳, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、一人でより高い所に急いで避難することを覚える。支援を受けながら高台や避難経路を確認しておくことができる。津波に関する標識を覚える。(社ノウ 地域の安全, 特活, 国)	◎揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、一人でより高い所に急いで避難することを覚える。支援を受けながら海拔表示や標識を覚え、自分の生活圏での高台や避難経路を確認しておくことができる。(社ノウ 自然環境, 特活, 国)				
			単元名 (時間数)	◆津波避難行動を学ぼう(1)	◆津波避難行動を理解しよう(1)	◆津波避難行動を身に付けよう(1)	◆津波避難行動を身に付けよう(1)	◆津波避難行動を身に付けよう(2) 略案				

を 守 る	6	いつ、どこにいても自分を守る	目標	◎発災時には、支援を受けながら倒壊物から離れた安全な場所に身を寄せ、持ち物等で頭を守る行動をとることを覚える。 (生ノイ 安全, 国)	◎発災時には、一人でも適切に判断し、倒壊物から離れた安全な場所に身を寄せ、持ち物等で頭を守る行動をとることを覚える。 (生ノイ 安全, 道徳, 国)	◎発災時には、一人でも適切に判断し、倒壊物から離れた安全な場所に正しい姿勢で身を寄せ、落ち着いて持ち物等で頭を守ることを覚える。(生ノイ 安全, 特活, 国)	◎支援者とともに通学路の避難経路や避難場所を確認する。通学路の橋や崖等の危険箇所を確認し発災時は避け、安全な道を探して避難することを理解する。 (社ノウ 地域の安全・オ 地理や歴史, 国)	◎支援者とともに通学路における避難経路や避難場所を複数確認し避難計画を立てる。発災時には安全に避難することを覚える。 (社ノウ 自然環境, 国)
			単元名 (時間数)	◆一人の時でも助かるための方法を学ぼう(1)	◆一人の時でも助かるための方法を学ぼう(1)	◆一人の時でも助かるための方法を学ぼう(1)	◆一人の時でも助かるための方法を学ぼう(1) 略案	◆一人の時でも助かるための方法を学ぼう(1)
	7	二次災害への対応	目標	◎動けるくらいの揺れになったら、支援を受けながらすぐに安全な場所に避難する。 (生ノイ 安全, 特活, 国) ◎「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」を念頭にみんなで急いで避難することを覚える。(生ノイ 安全, 特活, 国)	◎動けるくらいの揺れになったら、みんなで急いで安全な場所に避難することを学ぶ。 (生ノイ 安全, 特活, 国) ◎火災発生時は火元を避け、支援を受けながら訓練で身に付けた行動で迅速に避難することを理解する。(生ノイ 安全, 特活, 国)	◎動けるくらいの揺れになったら、すぐに安全な場所に避難することを覚える。 (生ノイ 安全, 特活, 国) ◎火災発生時は火元を避け、訓練で身に付けた行動で迅速に避難することを理解する。(生ノイ 安全, 特活, 国)	◎動けるくらいの揺れになったら、迅速に安全な場所に避難することを覚える。 (特活, 国) ◎事前に確認していた二次災害の恐れのある危険箇所には近づかないように避難することを覚える。(社ノウ 地域の安全, 特活, 国)	◎動けるくらいの揺れになったら、すぐに安全な場所に適切に避難することを覚える。 (特活, 国) ◎揺れの後は、断続的な余震、火災、土砂災害、地面の液化化等の二次災害があることを知り、安全な避難計画を立てておくことを理解する。(社ノウ 自然環境, 特活, 国)
			単元名 (時間数)	◆地震火災から逃げる方法を学ぼう(1) 略案 ◆土砂災害から身を守る方法を学ぼう(1)	◆地震火災から逃げる方法を学ぼう(1) ◆土砂災害から身を守る方法を学ぼう(1)	◆地震火災から逃げる方法を学ぼう(1) ◆土砂災害から身を守る方法を学ぼう(1)	◆地震火災から逃げる方法を学ぼう(1) ◆土砂災害から身を守る方法を学ぼう(1)	◆地震火災から逃げる方法を学ぼう(1) ◆土砂災害から身を守る方法を学ぼう(1) 略案
	8	助ける人になるための行動	目標	◎津波や地震火災の危険がない場合、火災や瓦礫の下敷きになっている人を発見したら大声を出したり人を呼びに行くことを理解する。(生ノカ 役割, 国)	◎津波や地震火災の危険がない場合、火災や瓦礫の下敷きになっている人を発見したら大声を出したり、人を呼ぶ等の行動をとることを覚える。(生ノカ 役割, 国)	◎津波や地震火災の危険がない場合、火災や瓦礫の下敷きになっている人を発見したら大声で周囲の人に知らせたり大人を呼びに行ったり瓦礫撤去を手伝ったり、できる限りの行動をとることを理解する。 (生ノカ 役割, 道徳, 国)	◎津波や地震火災の危険がない場合、火災や瓦礫の下敷きになっている人を発見したら、周囲の人に知らせ、初期消火や搬送等の自分に可能な限りの手伝いをすることを理解する。(保体ノH 保健, 道徳, 国)	◎津波や地震火災の危険がない場合、火災や瓦礫の下敷きになっている人を発見したら周囲の人に知らせ、消火や救助の手伝い等自分にできる限りの行動をとることを理解する。(保体ノI 保健, 道徳, 国)
			単元名 (時間数)	◆けが人や病人を助ける方法を学ぼう(1) 略案	◆けが人や病人を助ける方法を学ぼう(1) 略案	◆けが人や病人を助ける方法を学ぼう(1)	◆けが人や病人を助ける方法を学ぼう(1)	◆けが人や病人を助ける方法を学ぼう(1)
	9	みんなで生き延びるための知恵と技	目標	◎避難生活においては、支援を受けながら集団生活のルールやマナーを理解して、落ち着いて過ごすことを理解する。 (生ノケ きまり, 国) ◎地震がきたら電話がつながりにくくなることがわかる。(生ノイ 安全, 国)	◎避難生活においては、支援を受けながら、集団生活のルールやマナーを守り、我慢したり分け合ったりすることが理解できる。 (生ノケ きまり, 国) ◎地震がきた時の家族との連絡方法に「災害伝言ダイヤル171」があることを知る。(生ノコ 社会の仕組み, 国)	◎避難生活においては、支援を受けながら、集団生活のルールやマナーを守り、我慢したり、分け合ったり、協力したりすることを理解する。(生ノケ きまり, 国) ◎地震がきた時の家族との連絡方法に「災害伝言ダイヤル171」があることを理解する。(生ノコ 社会の仕組み, 国)	◎避難生活においては、集団生活のルールやマナーを守りながら過ごすことを覚える。 (社ノア 社会参加, 職家ノB エ 快適な住まい方, 道徳, 国) ◎「災害伝言ダイヤル171」等で家族と連絡をとる方法を理解する。 (社ノイ 公共施設, 国)	◎避難生活においては、集団生活のルールやマナーを守り、自分にできる限りの協力をしながら過ごすことを覚える。 (社ノア 社会参加, 家ノB オ 住居, 道徳, 国) ◎「災害伝言ダイヤル171」等の利用の仕方を知る。(社ノイ 公共施設, 国)
			単元名 (時間数)	◆避難所での生活を知ろう(3) ◆家族の無事を確認しよう(1)	◆避難所での生活を知ろう(3) 略案 ◆家族の無事を確認しよう(1) 略案	◆避難所での生活を知ろう(3) ◆家族の無事を確認しよう(1)	◆避難所での生活を知ろう(3) ◆家族の無事を確認しよう(1)	◆避難所での生活を知ろう(3) ◆家族の無事を確認しよう(1)
	10	地域社会の一員としての心構え	目標	◎身の回りのことで自分でできることを増やす。(道徳, 国) ◎支援を受けながら学校で学習したことを家庭に伝えることができる。 (生ノオ 人との関わり, 国)	◎身の回りのことで自分でできることを増やす。(道徳, 国) ◎家庭において防災について話す時間を設ける。(生ノオ 人との関わり, 国) ◎支援を受けながら地域の防災訓練に参加する。(生ノカ 役割, 国)	◎身の回りのことで自分でできることを増やす。(道徳, 国) ◎家庭の防災対策を手伝う。 (生ノカ 役割, 国) ◎支援を受けながら地域の防災訓練に参加する。(生ノカ 役割, 国)	◎家庭において、備蓄品の確認や発災時の避難場所や集合場所、連絡先等の確認をしておくことができる。(職家ノA イ 役割, 国) ◎地域の防災活動にはどのようなものがあるのかを知る。(職家ノA エ 地域の人々, 国)	◎家庭において、備蓄品の確認や発災時の避難場所や集合場所、連絡先等の確認をしておくことができる。(家ノA イ 家庭生活, 国) ◎地域の防災活動を知り、できる範囲で参加することができる。 (家ノA イ 家庭生活, 道徳, 国)
			単元名 (時間数)	◆身近な人とあいさつしよう(1)	◆地域の人と仲良くしよう(1)	◆地域の人と仲良くしよう(1) 略案	◆地域の人とつながっておこう(1)	◆地域の人とつながっておこう(1)

暮
ら
し
を
と
り
も
ど
す

単元・題材名		非常持ち出し袋の中身を確認しよう！	第 1 / 5 時					
	評価の観点	目標						
本時の目標	知識及び技能	非常持ち出し袋には、どんな物が入っているのかが分かる。	学習評価	A	目標設定	A	支援の手立て	B
	思考力・判断力・表現力等	非常持ち出し袋の中身と確認表の各項目とを対応することができる。		B		B		
	学びに向かう力、人間性等	確認表を見ながら、非常持ち出し袋の中身を確認しようとする。		B		B		

本時の授業後「学習評価」、「目標設定」、「手立て」の順に A～D で記入する。

学習評価：A 達成できた B ほぼ達成できた C 一部達成できた D 達成できなかった

目標設定：A 目標は適切だった B 目標は低すぎた C 目標が高すぎた D 目標が適切でなかった

支援の手立て：A 有効であった B ほぼ有効であった C 一部有効であった D 適切ではなかった

前時からの改善点	
各教科内容一覧表	生活（イー安全）

学習過程

過程	時間配分	学習活動 ※探究的な学習活動場面：	指導上の留意点・支援
導入	5 分	<div>1 あいさつをする。</div> <div>2 学習内容を知る</div> <div><div>① テレビをみる</div><div>② ひじょうもちだしぶくろ をかくにんしよう</div><div>③ ふりかえり</div></div>	<div>・学習の始まりを意識できるよう、全児童の姿勢が整っているか確認し、日直の児童に号令をかけるように促す。</div> <div>・本時のスケジュールを確認する。</div> <div>※テレビでスケジュールを提示する。</div>

展 開	3 5 分	<p>3 テレビを見る</p> <p>①地震の動画を見る。</p> <p>②地震後の生活についての説明を聞く。</p> <p>4 非常持ち出し袋の中身を確認する</p> <p>①持ち物を全部かばんから出す。</p> <p>②確認表を見る。</p> <p>②持ち物があるかないかを確認する。</p> <p>③持ち物があれば確認表にシールを貼る。</p> <p>④確認が終わった時には、確認表を T 1 に「できました」と言って手渡す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の動画を見せることを通して、地震が起きたらどうなるかイメージできるようにする。 ・地震が起こったら、おいしいご飯が食べられなくなることやお風呂にも入れなくなることなど、ライフラインが使えなくなった場合の具体例を伝えるようにする。 ・避難所生活の様子も伝える。 ・一つ一つ、児童が自分でリュックの中から荷物を出すように促す。 ・チェックシートの文字を読むように促し、それと同じ中身を非常持ち出し袋の中から探すようにする。(B, E、C) ・教員が 2 つの物を持ち、「○○はどちらかな？」と聞くことで、児童が選択して答えられるようにする。(A、D、F) 正しい物を選択できた場合には、即時に称賛する。 ・持ち物が入っていた場合には、持ち物確認表の項目にシールを貼るように促す。
ま と め	5 分	<p>5 振り返りをする</p> <p>6 あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ確認表の結果を確認するようにする。その際、各児童の補助者の教員が、各児童が頑張っていた点やできていた点なども伝えるようにする。 ・学習の終わりを意識できるよう、全児童の姿勢が整っているかを確認し、日直の児童に号令をかけるように促す。

準備物

テレビ、PC、非常持ち出し袋、確認表、シール

中学部 第2学年 総合的な学習の時間 学習指導略案

指導者氏名：

授業日時 令和4年7月6日金曜日 第4～5校時

場所 多目的ホール

単元・題材名		災害に備えちよき「地震の仕組みと避難グッズ」	第 1 / 2 時				
	評価の観点	目標					
本時の目標	知識・技能	非常持出袋や備蓄品の必要性を知ることができる。	学 習 評 価		目 標 設 定		支 援 の 手 立 て
	思考力・判断力・表現力	家の防災グッズには何があるのか、何が必要なのか考えることができる。					
	学びに向かう力、人間性	非常持出袋や備蓄品の必要性を感じ、日頃から災害に備えようとする。					

本時の授業後「学習評価」、「目標設定」、「手立て」の順にA～Dで記入する。

学習評価 : A 達成できた B ほぼ達成できた C 一部達成できた D 達成できなかった

目標設定 : A 目標は適切だった B 目標は低すぎた C 目標が高すぎた D 目標が適切でなかった

支援の手立て : A 有効であった B ほぼ有効であった C 一部有効であった D 適切ではなかった

前時からの改善点	
各教科内容一覧表	(社／ア 社会参加， 保体／H 保健， 総合， 国)

学習過程

過程	時間配分	学習活動	指導上の留意点・支援
導入	5	1 あいさつ 2 本時の内容の説明 ①あいさつ ②災害のはなし ③非常持ち出し袋の必要性 ④各家庭アンケートの内容発表 ⑤家庭には何が必要か検討 ⑥ふりかえり ⑦あいさつ	・日直が号令。 ・ホワイトボード等に予定を板書しておく。 ・本時は災害時にどうして非常持ち出し袋が必要か、備蓄品の種類や家庭に準備されているものについて知ることをねらいとする。
展開	7 5	3 災害のはなし ・地震の影響や被害について知る。 ・地震の仕組みを作成する。 4 非常持ち出し袋の必要性 ・避難生活について知る。 ・必要物資について考える。 ・個人の非常持ち出し袋の中身を見せ、何のために必要なものか考える。	・東日本大震災の影響や被害が考えられるように、重要部分を白塗りした写真を提示し、考える時間を設ける。 ・見本を作成し、仕組みについて理解できるようにするほか、津波の仕組みが見えるよう水槽等使用する ・避難生活の写真を見せ、必要な物は何か写真から考えられるようにするほか、持ち出し袋リストを提示する。

		5 各家庭アンケート統計を見る。 ・自分の家庭には何が必要なのか考える。	・教師はどうして必要なのかをしっかりと伝える。 意味づけを行う。
ま と め	20	6 ふりかえり ・ワークシートの発表をする。 ・一番必要と思った物資の発表をする。 7 あいさつ	・【なぜ】【どうして】その物資が必要なのか発表できるようにする。生徒の意見はいつでもふりかえることができるように、ミニホワイトボードに細かく記入しておく。 ・日直が号令

生徒準備物：筆記用具、ミニホワイトボード、プロジェクター、写真（白塗り、避難生活）、

持ち出し袋、保護者へのアンケート、持ち出し袋リスト

ぼうさいがくしゅう
防災学習 アンケート

保護者さんへ 総合の学習で使用します。アンケートのご協力、ぜひお願いします。

かてい びちくひん かくにん
「家庭備蓄品を確認しよう!」

ねん 年 くみ 組 なまえ 名前 _____

1 家にある^{びちくひん}備蓄品に ○をしてください。

<p>防災食</p> 	<p>軍手</p> 	<p>保存水</p> 	<p>簡易トイレ</p> 	<p>ラジオ付ライト</p> 	
<p>防災食セット</p> 	<p>ヘルメット</p> 	<p>ラジオ付きLEDライト</p> 	<p>ランタン</p> 	<p>車載用防災セット</p> 	<p>キャスター用ストッパー</p> 
<p>圧縮毛布</p> 	<p>土のう</p> 	<p>防災マニュアル</p> 	<p>レスキューシート</p> 		

2 上の^{うえ}写真以外に^{しゃしん い がい}ある物を書^かいてください。

ありがとうございました。大切に活用させていただきます。

個人非常持ち出し品（学校保管用）

個々に応じて必要なものを入れて持ってきてください。ご家庭にあるものでかまいません。
着替え等は身体の大きさに応じたもの、あるいは使用・賞味期限のあるものは、期限をご確認のうえ、適切な大きさのリュックサック等に入れて持ってきてください。

	着替え（ <small>き が うわぎ</small> 上着・シャツ・ズボン・パンツ・靴下 <small>くつした</small> など）	
	ヘルプカード（ <small>きんきゅううれんらくさき</small> 緊急連絡先・わが子 <small>とくちょう</small> の特徴など）	
	安心グッズ（ <small>えほん</small> 絵本・ <small>ぬえ</small> 塗り絵・おもちゃ・あめなど）	 
	筆記用具（ペン・マジック・メモ用紙 <small>ようし</small> など）	
	救急品（ <small>きゅうきゅうひん</small> カットバン・ <small>ほうたい</small> 包帯など）	
	薬（ <small>くすり</small> 常備薬・ <small>しょうどくやく</small> 消毒薬など）	
	カッパ	
	ハンカチ	タオル
		
	ポケットティッシュ	ポケットウェットティッシュ
		
	新聞	マスク
		
	飲み物 （500ml ペットボトル）	携帯用ハンドジェル （ <small>しょうどくえき</small> 消毒液など）
		
	軍手	ビニール袋
		
	カイロ	ふえ
		
	懐中電灯	家族写真
		
	紙おむつ	生理用品
		
	虫よけスプレー	めがね 眼鏡
		

事 例

千葉県立市原特別支援学校

(H28 年度防災教育の実践記録より抜粋)

※夏休みの取組



(8)防災教育公開授業

ア 期日 平成 28 年 11 月 22 日(火)

イ 公開授業内容

小学部では、「自分の命は自分で守る児童の育成を目指して」をテーマに朝の会や帰りの会で「今日の防災」というコーナーをつくり、主に地震発生時の初期動作について学習した。2年生は、朝の会の中でヘルメットをかぶったり、机の下に潜ったりする練習を繰り返し行った。

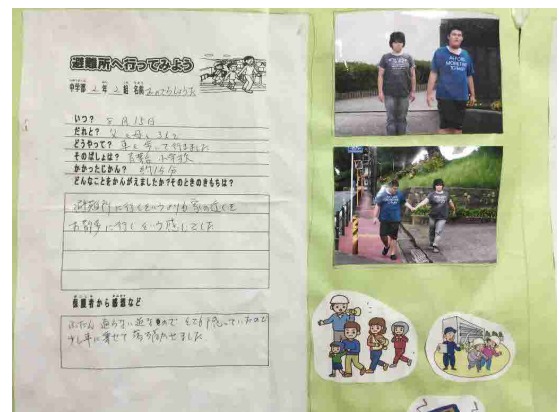


中学部では、「自分の命を守ることのできる力の育成を目指して」をテーマに総合的な学習の時間の中で大地震を想定した避難行動について学習した。2年生では、「大地震の時の避難を学ぼう」をテーマに、自宅で大地震が起きたときの避難について学

んだ。自宅や避難経路の擬似的な環境を設定する中で、第一次避難行動や避難所までの避難行動の練習に取り組んだ。



また、小学部と中学部では、夏季休業中に「避難所に行ってみよう」という課題に取り組み、保護者と一緒に近くの避難所まで実際に行き、それを発表したり、校内に掲示したりした。



高等部では、「自分や周りの人の命を守る力の育成を目指して」をテーマに、特別活動の中の生徒会活動で防災教育を行った。

防災委員会では、実際に非常食を食べ、味や食感等について知る学習を行った。



家庭と連携した防災教育 実践事例

・ワークシート

<ポイント>

★学校の防災の授業で学んだこと（話題になったこと）を家庭に持ち帰り、家庭で防災について話し合うことができるようにします。

★クイズ形式や、具体的な写真やイラストで提示することにより、児童生徒が興味関心を持って学習できるようにします。

★障害の程度によっては、絵カード等を使って、児童生徒と保護者がコミュニケーションをとりながら話し合えるようにします。

じしんぼうさい たく
地震防災 2 択クイズ

Q 1 地震がおきた！まずどうすればいい？



()



()

★地震がおきたときは、物がおちてきたり、たおれたりします。

まずは自分の頭や体を守りましょう。



Q 2 たてももの そと ひなん
建物から外に避難するときにつかうものは？



()



()

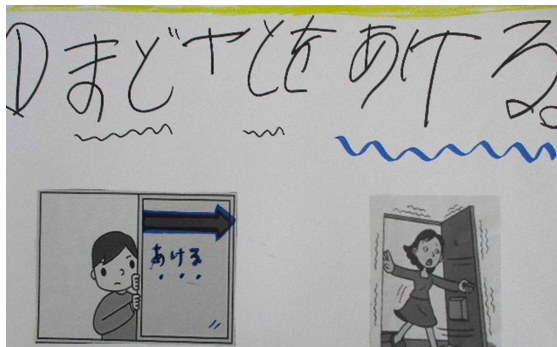
★エレベーターは止まってしまうことがあるので、閉じ込められてしまうかもしれません。

もし、エレベーターにのっていて地震がおきたら、すべての階のボタンを押して、とまった

かい
階ですぐに、エレベーターからおりましょう。



Q 3 ゆれがおさまったら、どうする？



()

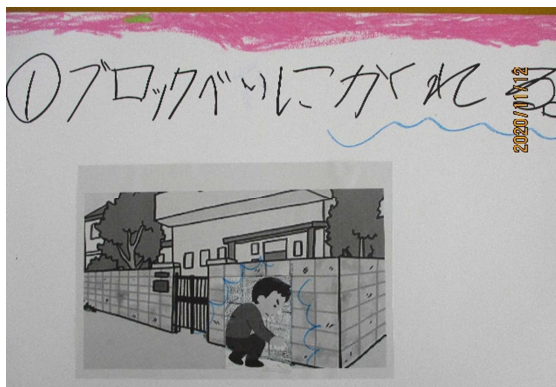


()

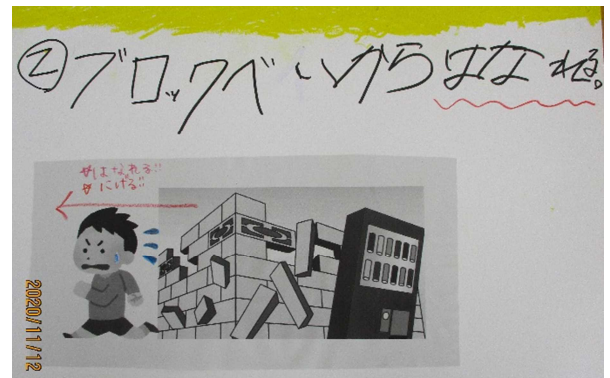
★いつでも避難^{ひなん}できるように、出口^{でぐち}をあけましょう。



Q 4 そと^{そと}にいるときに地震^{じしん}がおきた！ ただしいのはどっち？



()

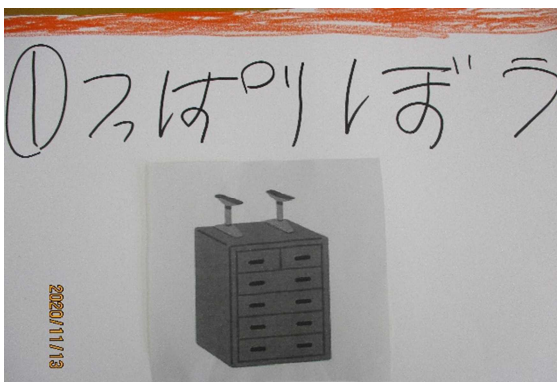


()

★ブロックベ^いは、たおれてけ^がをすることがあるので、はなれましょう。



Q 5 か^かぐがたおれないようにするために、使^{つか}うものは？



()



()

ぼうさいがくしゅう
防災学習 2

かぞくぼうさいかいぎ
家族防災会議について知ろう！



◎いつ、どこで、自分が何をしているときに地震が発生するか、わからない。

がっこう じしん おきたら
＜学校にいるとき地震が起きたら＞ ➡ ひなんくんれん そな
避難訓練をして備えている。

じたく じしん おきたら
＜自宅にいるとき地震が起きたら＞ ➡ _____

家族で話し合ってる？

かぞく ぼうさい はな あ かくにん たいせつ
家族で防災について、話し合って確認しておくことが大切！ ➡ 家族防災会議



◎まずは自分で考えてみよう。



① じたく じしん はっせい ばあい ふあん
自宅にいるとき地震が発生した場合、なにが不安になるか？

② かぞく じぶん ひとり なに ふあん
家族がみんなバラバラで自分が一人にいるとき、何が不安？

かぞく ぼうさい はな あ かくにん たいせつ
家族で防災について、話し合って確認しておくことが大切！ ➡ かぞく ぼうさい かいぎ
家族防災会議

◎どんなことを話しておけばいいのか？

かぞく ぼうさい かいぎ はな あ
家族防災会議で話し合っておくとよいこと。(抜粋)

★さいがい じ こうどう じぶん み まも かた ゆ おさ あと こうどう かぞく かくにん
★災害時の行動・・・自分の身の守り方や揺れが収まった後などの行動について、家族で確認しておく。

★わ や きげん ところ み まも あんぜん ばしょ さが
★我が家のチェック・・・危険な所がないかをチェックするとともに、身を守りやすい安全な場所を探しておく。

★ハザードマップのチェック・・・じちたい ようい ようい じぶん す ちいき
の避難場所や避難経路確認しておく。(ネットでもみれるかも・・・)

★ひなん ばしょ して い ひなん ばしょ ひなん けいろ ひるま やかん ある きよりかん じかん じっかん
★避難場所・・・指定されている避難場所・避難経路を、昼間と夜間に歩いてみて距離感や時間などを実感
しておく。

★びちくひん きげん ぎ
★備蓄品・・・期限切れがないかチェックしておこう。

★れんらく ほうほう さいがいようでんごん かつようほうほう
★連絡方法・・・災害用伝言ダイヤル(171)やツイッターなどの活用方法をチェックする。

いろいろなサービスがある。☐171災害用伝言ダイヤル
(携帯)災害用伝言版サービス
web171災害用ブロードバンド伝言板

◎さいがいようでんごん
◎171災害用伝言ダイヤル

ひ さい ち
被災地

①171をダイヤル

②「1」(ろくおん えらぶ)
録音)を選ぶ

ひ さい ち でんわばんごう
③被災地の方の電話番号をダイヤル

④メッセージのろくおん
録音

ひ さい ち が い
被災地外

①171をダイヤル

②「2」(さいせい えらぶ)
再生)を選ぶ

ひ さい ち でんわばんごう
③被災地の方の電話番号をダイヤル

④メッセージのさいせい
再生

かぞくぼうさいかいぎ
家族防災会議をしよう！



地震が発生する前に、家族でいろいろな話をして確認しておくことが大切です。
夏休み中におうちの人と確認して、へ記入しましょう。

かぞくぼうさいかいぎ はな あ
家族防災会議で話し合っておくとよいこと。(抜粋)

★さいがいじ こうどう じぶん み まも かた ゆ おさ あと こうどう かぞく かくにん
災害時の行動・・・自分の身の守り方や揺れが収まった後などの行動について、家族で確認しておく。

じしん はっせい
地震発生⇒

ゆ れ おさ
揺れが収まったら⇒

★わ や きけん ところ み まも あんぜん ばしょ さが
我が家のチェック・・・危険な所がないかをチェックするとともに、身を守りやすい安全な場所を探しておく。

きけんなところが、(あった ・ なかった) ※あった場合は、場所や状態を書いてください。



★ハザードマップのチェック じちたい ようい ようい じぶん す ちいき
自治体などで用意されているハザードマップを用意し、自分たちの住む地域

ひなん ばしょ ひなんけいろうかくにん
の避難場所や避難経路確認しておく。(ネットでもみれるかも・・・)

★ひなん ばしょ してい ひなん ばしょ ひなんけいろう ひるま やかん ある きよりかん じかん じっかん
避難場所・・・指定されている避難場所・避難経路を、昼間と夜間に歩いてみて距離感や時間などを実感
しておく。

ひなん ばしょ
避難場所・・・

★びちくひん きげん ぎ
備蓄品・・・期限切れがないかチェックしておこう。

★れんらく ほうほう さいがいようでんごん かつようほうほう
連絡方法・・・災害用伝言ダイヤル(171)やツイッターなどの活用方法をチェックする。

(例)171災害用伝言ダイヤル

ひさいち
被災地

①171をダイヤル

ろくおん えらぶ
②「1」(録音)を選ぶ

ひさいち でんわばんごう
③被災地の方の電話番号をダイヤル

ろくおん
④メッセージの録音

ひさいちがい
被災地外

①171をダイヤル

さいせい えら
②「2」(再生)を選ぶ

ひさいち でんわばんごう
③被災地の方の電話番号をダイヤル

さいせい
④メッセージの再生

家族のみんなと考えよう！
避難所での過ごし方

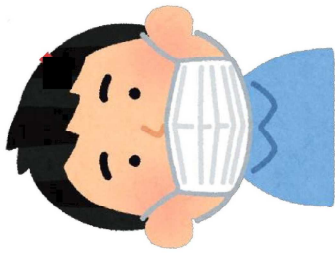
名前	
----	--

1 家の近くの避難所はどこですか。

発達段階に応じて、おうちの方と、絵カード等を使ってコミュニケーションをとりながら、話し合うことができるよう工夫しています。

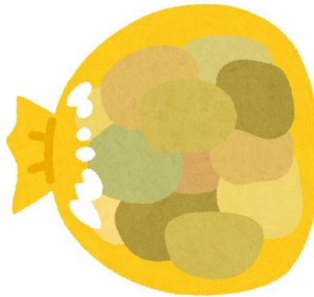
2 避難所での過ごし方で、いいと思うものにおもう。

① マスクをする。



--

② ゴミはゴミ袋に入れる。



--

③ 静かに過ごす。



--

④ 手洗い、消毒をする。



--

3 わかったことや感想を書こう。

 私	
-------	--

 家族	
--------	--

保護者さんへ 総合の学習で使します。アンケートのご協力、ぜひお願いします。

かてい びちくひん かくにん
「家庭備蓄品を確認しよう!」

ねん くみ なまえ
年 組 名前

1 家にある^{びちくひん}備蓄品に ○をしてください。

防災食



軍手



保存水



簡易トイレ



ラジオ付ライト



防災食セット



ヘルメット



ラジオ付き
LEDライト



ランタン



車載用防災セット



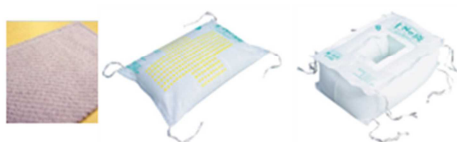
キャスター用
ストッパー



圧縮毛布



土のう



防災マニュアル



レスキューシート



2 上の^{うえ}写真以外に^{しゃしん い がい}ある物を書^かいてください。

ありがとうございました。大切に活用させていただきます。

個人非常持ち出し品（学校保管用）

個々に応じて必要なものを入れて持ってきてください。ご家庭にあるものでかまいません。
着替え等は身体の大きさに応じたもの、あるいは使用・賞味期限のあるものは、期限をご確認のうえ、適切な大きさのリュックサック等に入れて持ってきてください。

き が うわぎ 着替え（上着・シャツ・ズボン・パンツ・靴下など）	
ヘルプカード（緊急連絡先・わが子の特徴など）	
あんしん 安心グッズ（絵本・塗り絵・おもちゃ・あめなど）	 
ひっきようぐ 筆記用具（ペン・マジック・メモ用紙など）	
きゅうきゅうひん 救急品（カットバン・包帯など）	
くすり 薬（常備薬・消毒薬など）	
カッパ	
ハンカチ	
ポケットティッシュ	
しんぶん 新聞	
飲み物 (500ml ペットボトル)	
けいたいよう 携帯用ハンドジェル (しょうどくえき 消毒液など)	
ぐんて 軍手	
ビニール袋	
カイロ	
ふえ	
かいちゅうでんとう 懐中電灯	
かぞくしゃしん 家族写真	
かみ 紙おむつ	
せいりようひん 生理用品	
むし 虫よけスプレー	
めがね 眼鏡	

家族で^{ぼうさい}防災について話し合おう！

名前()

- 家に一人でいる時に地震が起きても避難できるように、家族で避難場所や避難所、避難経路について話し合いましょう。

※話し合う前に^{かくにん}確認しましょう！

自分が住んでいる^{ちいき}地域で南海トラフ^{じしん}地震が起きた時の…

・^{よそうしんど}予想震度

・^{つなみ}津波の高さ、^{とうたつ}到達時間

①^{ひなん}避難場所は？

②^{ひなんけいろ}避難経路は？かんたんに地図で表してみよう！

③避難場所ひなんに持って行くものは？どこにあるかも確認かくにんしておこう！

④避難場所ひなんに着いたら、こうしよう！

○家族で話し合っの感想

<お家の方から>

わが家の^{ひじょう}非常持ち出し品・^{びちく}備蓄品をチェックしよう！

名前()

○お家の方といっしょに家にある^{ひじょう}非常持ち出し品や^{びちく}備蓄品をチェックしましょう。

^{ひじょう} 非常持ち出し品・ ^{びちく} 備蓄品		チェック
	ヘルメット	
	かいちゅうでんとう 懐中電灯	
	ラジオ	
	電 池	
	運動ぐつ	
	現 金	
	水	

	<p>かん 缶づめの食料</p>	
	<p>レトルト食品</p>	
	<p>ウェットティッシュ (ティッシュ)</p>	
	<p>マスク</p>	

<感想>

<お家の方から>

家庭と連携した防災教育 実践事例

・保護者や地域及び関係機関との連携

<ポイント>

★地震は時と場所を選びません。児童生徒が在宅中に地震が発生した場合には、「個別の避難計画」に基づき、地域や関係機関との協力体制のもと、命を守る行動をとらなくてはなりません。

そのために、学校での防災教育において、保護者や地域及び関係機関と連携した取組を行う必要があります。

事 例

大分県立中津支援学校

(H27 年度防災教育実践事例集より抜粋)

6 保護者や地域・関係機関との連携

防災教育・防災管理を進めていく上で、保護者の理解や協力、そして連携を図ることは必要不可欠なことである。また、同様に地域や関係機関との連携も図らなければ、学校独自の取組で終わってしまう。

そこで、保護者と連携を図る上で実施してきた取組、また、本校の実践的な防災教育を推進する目的で地域・関係機関等と設置した実践委員会での実施内容を紹介する。

(1) 保護者との連携

① PTA防災講習会

教職員が研修で実施した「RSK式防災カルテ問診表」を保護者にも実施し、災害発生から72時間を想定して、時間経過に伴う行動や対応また手段や必要な機材・物品等を挙げていき、我が子そして家族が被災した感覚で問診表に記入していった。我が子の課題とともに、家庭での課題も挙がり、防災を考える「はじめの一步」の機会となった。

【RSK式防災問診表】



※詳しくは「6 関係資料1」を参照

② PTA役員会への参加

防災に関して保護者と連携を図るため、防災担当教職員がPTA役員会に定期的に参加した。最初の参加時に、岩手県への先進地視察の結果を報告し、今後、防災の取組を進める中で、保護者との連携は必要不可欠であることを伝えた。

2回目以降、保護者との連絡方法を確立するための手段の相談、家庭準備の学校備蓄への協力要請などを行っていった。また、中津市で登録している「災害時要援護者」の説明や手続き等も伝えた。

PTAの役員からPTA会員へと、つながりをもちながら防災を広めていき、保護者に中にも防災意識が芽生えていった。

③ メール送信システムの導入

災害時の緊急連絡等に活用するため導入した。システム導入の必要性・利用料・使用する場合（状況）・登録方法を保護者へ示し手続きを進めた。

④ 家庭準備の学校備蓄

災害時に学校待機となった場合、一般的な備蓄食料では対応が難しい児童生徒に対して、それぞれの実態に応じた食事や必要物品を備える必要があった。そこで、保護者に協力を依頼し、食料・食器類・着替え・水を準備してもらい、学校備蓄を整えていった。

また、服薬をしている場合や、医療を必要とする場合等、個別で対応できるように相談し

ながら整備していった。

準備物・更新手続き・保管場所・保管ルール等を示し、整備を進めた。持ち帰りの前には、非常食体験を行い、持参の食料が児童生徒にとって合っているのかを確認し、その結果を保護者に伝えることで、さらに連携を図っていった。



⑤ 災害時要援護者

中津市社会福祉課と連携を図り、「中津市災害時要援護者避難支援計画」をもとに、登録手続きを本校保護者向けに示し、提示した。

【災害時要援護者】	
<p>必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らをまもるために安全な場所に避難するなどの災害時の一連の行動を執ることに支援を要する者</p> <div><p>障がい者</p><p>ア 身体障がい者 身体障害者障害程度等級表の級別「1級及び2級」の者 視覚障害1／2級、聴覚または平衡機能の障害2級、肢体不自由（上肢）1・2級、肢体不自由（下肢）1・2級、肢体不自由（体幹）1・2級、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害（上肢機能又は移動機能）1・2級、心臓機能障害1級、腎臓機能障害1級、呼吸器機能障害1級、ぼうこうまたは直腸の機能障害1級、小腸機能障害1級、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害1・2級</p><p>イ 知的障がい者 療育手帳判定基準の障害程度「最重度（A1）及び重度（A2）」の者 最重度（A1） ①標準化された検査により判定した結果を指数化したもの（以下「指数」という）がおおむね20以下の者 ②指数がおおむね21以上35以下のもので、身体障害者福祉法に基づく障害等級（以下「障害等級」という）の1級、2級または3級に該当する者 重度（A2） ①指数がおおむね21以上35以下のもので、上記A1に該当しない者 ②指数がおおむね36以上50以下のもので、障害等級の1級、2級又は3級に該当する者</p><p>ウ 精神障がい者 精神障害者保健福祉手帳の障害等級「1級」の者 1級：日常生活の用を弁ずることが不能な状態にある者</p><p>（3）その他市長が必要と認める者 前2号に準ずる者で、災害時の避難支援を希望する者のうち、市長が必要と認める者</p></div> <p>「中津市災害時要援護者避難支援計画」</p>	<p>《手続き》</p> <div><p>①民生委員が各家庭を訪問 ②聞き取り ③災害に向けて準備（カードの記入、緊急キッド準備）</p></div> <p>《未登録者の手続き》</p> <div><p>民生委員がわかる場合 → ①自ら民生委員に連絡</p><p>民生委員がわからない場合 → ①保護者が学校に連絡 ②学校が市役所に連絡 ③市役所が民生委員に連絡 ④民生委員が各家庭を訪問</p></div> <div><p>☆中津市社会福祉課との連携により手続きを示しています。 ☆保護者が登録を必要とする場合、学校に連絡をいただければ、学校は手続きの窓口となります。 ☆『中津市災害時要援護者避難支援計画』ダウンロードできます。</p></div>

【災害時要援護者の手続】

⑥ ホームページ

本校ホームページのトップページに「防災教育モデル事業」のバナーを設け、取組を紹介することで外部に発信していった。 URL <http://shien.oita-ed.jp/nakatsu/>



⑦ 防災だより

学校での防災の取組を少しでも多くの保護者に知らせるため、ホームページと同時に防災だよりを発行した。

※詳しくは「6 関係資料6」を参照



⑧ 授業参観

防災講習会、避難所生活体験、避難訓練等の取組の際、保護者に授業参観の呼びかけを行った。また、公開研究発表会では、参観とともに学校スタッフとして協力を得ることができた。

一人ひとりの 防災対策ノート

RSK 式防災問診表

お名前

歳 男 ・ 女

職業

役職

住所

NPO レスキュー・サポート九州

発生日時

月

日

時

分

が発生しました

災害発生

場所

季節

冬 ・ 春 ・ 夏

● 行動・対応

発災を知って、すぐ行うことは何ですか？

1

2

3

4

5

● 手段・資機材・課題

災害情報を取る方法や自分の身を守るには？

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

10
分
経
過

30
分
経
過

● 行動・対応

自分の身が守れた後何をしますか？

1

2

3

4

5

● 手段・資機材・課題

関係者の安否確認はどのようにしますか？

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

60
分
経
過

● 行動・対応

避難経路や一時避難場所を知っていますか？

1

2

3

4

5

● 手段・資機材・課題

避難するとき必要なことや注意すること

1

2

3

4

5



● 行動・対応

避難誘導や援助の方法は？

1

2

3

4

5

● 手段・資機材・課題

避難に必要なものや援助救助に必要なもの

1

2

3

4

5

6

7

8

9

12
時
間
経
過

● 行動・対応

避難場所に必要なものや方法は

1

2

3

4

5

● 手段・資機材・課題

災害備蓄に必要と思うもの、または備蓄しているもの

1

2

3

4

5

6

7

8

9

24
時
間
経
過

● 行動・対応

けが人や体調の悪い方がいたら

1

2

3

4

5

● 手段・資機材・課題

負傷者対応、医療機関対応、心のケア対応など

1

2

3

4

5



48
時
間
経
過

● 行動・対応

停電・断水・移動困難のときどんなことが困りますか

1

2

3

4

5

6

7

8

9

● 手段・資機材・課題

停電・断水・移動困難時にはどんな対策をとりますか

1

2

3

4

5

6

7

8

9

72
時
間
経
過

● 行動・対応

関係者の安否確認はどのようにしますか？

1

2

3

4

5

避難所で困ること、必要なもの

1

2

3

4

5

● 手段・資機材・課題

避難場所をどれくらい知っていますか？

2

3

また、知らない土地にいる場合ではどのようにして避難場所を探しますか？

1

2

3

4

その他

●被災から元の生活にいち早く戻るために、平常時に取り組んでおくことは何だと思いますか？

● 災害から身を守るために準備する支援には次のようなものがあります。

- ・ 身を守るために必要な災害備蓄品
- ・ 人的支援
- ・ 災害ボランティアとのネットワーク構築
- ・ 公的機関や医療機関に求める支援

家庭と連携した防災教育 実践事例

・「個別の教育支援計画」への記入

<ポイント>

★「家庭連絡票」や「避難場所等調査票」等で保護者に記入していただいた情報（避難場所、支援者、避難場所での配慮事項等の情報）を、「個別の教育支援計画」に記載し、情報を引き継ぐようにします。

(記入例)

個別の教育支援計画

年度始めには、作成したものを保護者と確認し、その日付を記入する。
年度終わりには、全ての欄に記入したものを保護者と確認し、実際に確認した保護者の署名をもらう。

確認書

別紙のとおり個別の教育支援計画の内容を確認し、了解しました。

幼児児童生徒氏名

学年等	年	年	年	年	年	年
年度当初の確認日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
年度の最終確認日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
作成者氏名	担任等の氏名 を記入					
学校長氏名						
保護者確認 (サイン又は押印)						

必要に応じて欄を調整してください。

卒園・卒業時には、下の同意欄に署名をもらい直接進学先へ送る、又は、保護者を通じて進学先に渡してもらうなどし、継続した支援ができるようにする。

卒園・卒業に際し、進学先へ個別の教育支援計画一式を送付することに同意します。

年 月 日 保護者氏名

基礎情報(フェイスシート)

変更・追記を適
宜行い、年に1
度保護者に確認
する。

① 本人	ふりがな	こうち かつお		別	男 ・ 女
	氏名	高知 勝男		住所	高知市〇町〇丁目1-2
	生年月日	平成 〇 年 〇 月 〇 日			
	療育手帳	A1 ・ A2 ・ B1 ・ B2 ・ なし		身体障害者手帳	級 ・ なし
	精神障害者手帳	1級 ・ 2級 ・ 3級 ・ なし			
現在利用している 福祉サービス	あり ・ なし	ありの場合は事業所名・サービスを記入 よさこいはうす・放課後等デイサービス			
② 保護者	ふりがな	こうち いちろう		住所	同上
	氏名	高知 一郎			
	続柄	父		電話番号	08×-123-4567
	緊急連絡先(氏名・続柄・住所・電話番号) 高知 五郎・祖父・高知市〇町×丁目2-3・08×-987-6543				
③ 家族構成	氏名	続柄	生年月日	必要に応じて別居・同居・連絡先	
	高知 一郎	父	SO年〇月〇日	同居	
	高知 花実	母	SO年〇月〇日	同居	
	高知 さくら	姉	HO年〇月〇日	同居	
④ 身体・健康に関わる特記事項 アレルギー、運動制限、手術歴等 ・花粉アレルギーあり(3月ごろ服薬あり)					

* 変更・追記した場合は、その箇所に(〇年〇月〇日追記・変更)と記入する。

卒業後または3年後の姿	
⑤ 本人の願い	気持ちを落ち着けて、学習したい。 進学は〇〇〇学校に行きたい。
⑥ 保護者の願い	友達と仲良く生活し、行事などの活動にも落ち着いて参 本人ができることを増やしてほしい。

このシートは校内支援
会に使う。年に1度保
護者と確認。

可能な範囲で聞き取り、3年を
目処に中長期的願いを記入す
る。

現在受けている外部機関の支援（通院・相談等を含む）			
分野	支援機関名	担当者名	診断・所見・支援の内容
⑦ 医療	〇〇病院	医師 香川 健二	自閉症スペクトラム（こだわり、触覚過 敏、書字に苦手さがある）
⑧ 保健・福祉	よさこいはうす	鳴子 ゆり	・放課後等デイサービスを平日と土曜 日に利用している。 ・来所時のスケジュールはカードを利用 して知らせている。 ・夏休みには週3回平日9:00～15:0 〇利用し、調理や公共施設の利用など に取り組んだ。（令和〇年〇月〇日追 記）
⑨ 教育	〇〇〇学校〇年生	学級担任 土佐みずき 通級担当 坂本 夏子	・通級は週 STと個別 スケジュール め、確認し することな ・1学期の取組 大切に気づき よく見るようにな きた。2学期からは 市販のものを利用 する。（令和〇年〇 月〇日追記）
⑩ 地域・その他	■地域防災 避難場所：〇〇公民館 ■茶暇 〇〇スポーツクラブ	担当 〇〇市 山本 秋子 担当 田中 高志	・個別避難計画作成。避難場所、支援 者、避難場所での配慮事項の確認、協 議（令和〇年〇月〇日追記） ・毎週日曜日の午後、水泳に通ってい る。

各分野で行っている支援、できること等を書く。

個別支援計画の作
成状況や記載内容
等を記入する

必要に応じて欄を調整し
てください。

* 変更・追記した場合は、その箇所に（〇年〇月〇日追記・変更）と記入する

家庭への啓発（アプローチ）事例

- ・「家庭連絡票」「避難場所等調査票」等の記入枠の設定

<ポイント>

★「家庭連絡票」や「避難場所等調査票」等に、「個別の避難計画」の作成／提出状況、避難場所、支援者、避難場所での配慮事項等の情報を、保護者に記入していただきます。

これらの情報を「個別の教育支援計画」に記載し、情報を引き継ぐようにします。

■ 避難場所等調査票（例：高知県立高知若草特別支援学校土佐希望の家分校）

・年度当初に調査をする、家庭連絡票や避難場所等調査票において、在宅時、通学中等においての災害発生時の避難想定場所、支援者等の聞き取りをすることで、個別の教育支援支援計画へ反映できます。

大規模災害発生時の対応に関する避難場所等調査・児童生徒引き渡し情報調査（通学生・訪問生）										
学 部 年 児童生徒氏名										
1 自宅情報										
自 宅 住 所										
自宅電話番号										
緊 急 連 絡 先	①	氏名		続柄		電話番号				
	②	氏名		続柄		電話番号				
	③	氏名		続柄		電話番号				
2 通学情報（通学の方法が複数ある場合は②へも記入してください）										
時 分頃発					時 分頃着					
①	自宅					学校				
時 分頃発					時 分頃着					
②	自宅					学校				
*記載例 8時50分頃発 自動車25分 自宅 ○○交差点										
※上段に通学手段と時間を、下段にはどの道を通っているの などを記入してください。										
※介護タクシー等を利用して通学されている場合は、会社名、電話 してください。										
会 社 名						担 当 者 氏 名				
電話番号										
3 通学中に地震等の災害が発生した場合の、避難想定場所（山や公共施設など）について、思い当たる場所を具体的に記入してください。										
4 自宅で地震等の災害が発生した場合、自宅以外の避難場所について記入してください。										
5 通学生引き渡し調査票（大規模災害時の児童生徒引き渡し参考資料） ※通学生のみ記入										
※災害時に迎えに来られる方の調査です。以下に記入された方に、引き渡しカードをお渡しします。 ・各学部新入生は、カードを新規作成するので、引き取りができる方をご記入ください。 ・各学部新入生以外は、現在配付しているカードを継続使用するので、現在カードを持参中の方の名前を記入ください。 ・親族以外の方を記入される場合、保護者の皆さまからその方に、カードの主旨と引き取り方法についての説明をお願いします。										
優先順位	氏 名		続柄または 児童生徒との関係		住 所		電話番号			
①										
②										
③										

避難場所等の情報を、個別の教育支援計画へ反映します

家庭への啓発（アプローチ）事例

・防災参観日の設定

<ポイント>

★「防災参観日」を設定することにより、学校・家庭・地域が一体となって防災について考え、取り組む機会を得ることができ、日頃の連携も深まります。関係機関や自治体の防災担当課等から協力を得ることも有効です。

事 例

高知県立山田特別支援学校 防災参観日

(H30 年度広域福祉避難所開設・運営訓練)

**※H30 年度・校名変更前の名称(山田養護学校)と
なっています。**

山田養護学校で広域福祉避難所の開設・運営訓練を実施します！



<広域福祉避難所>

南国市、香南市、香美市、大豊町、南海学園、かがみの育成園、ウィッシュかがみの、障害者支援施設白ゆり、ワークセンター第二白ゆり、高知県立山田養護学校が協定し、大規模災害発生等により一般避難所での生活に支障を来した知的・発達障害児者の方を広域的に受け入れる福祉避難所です。

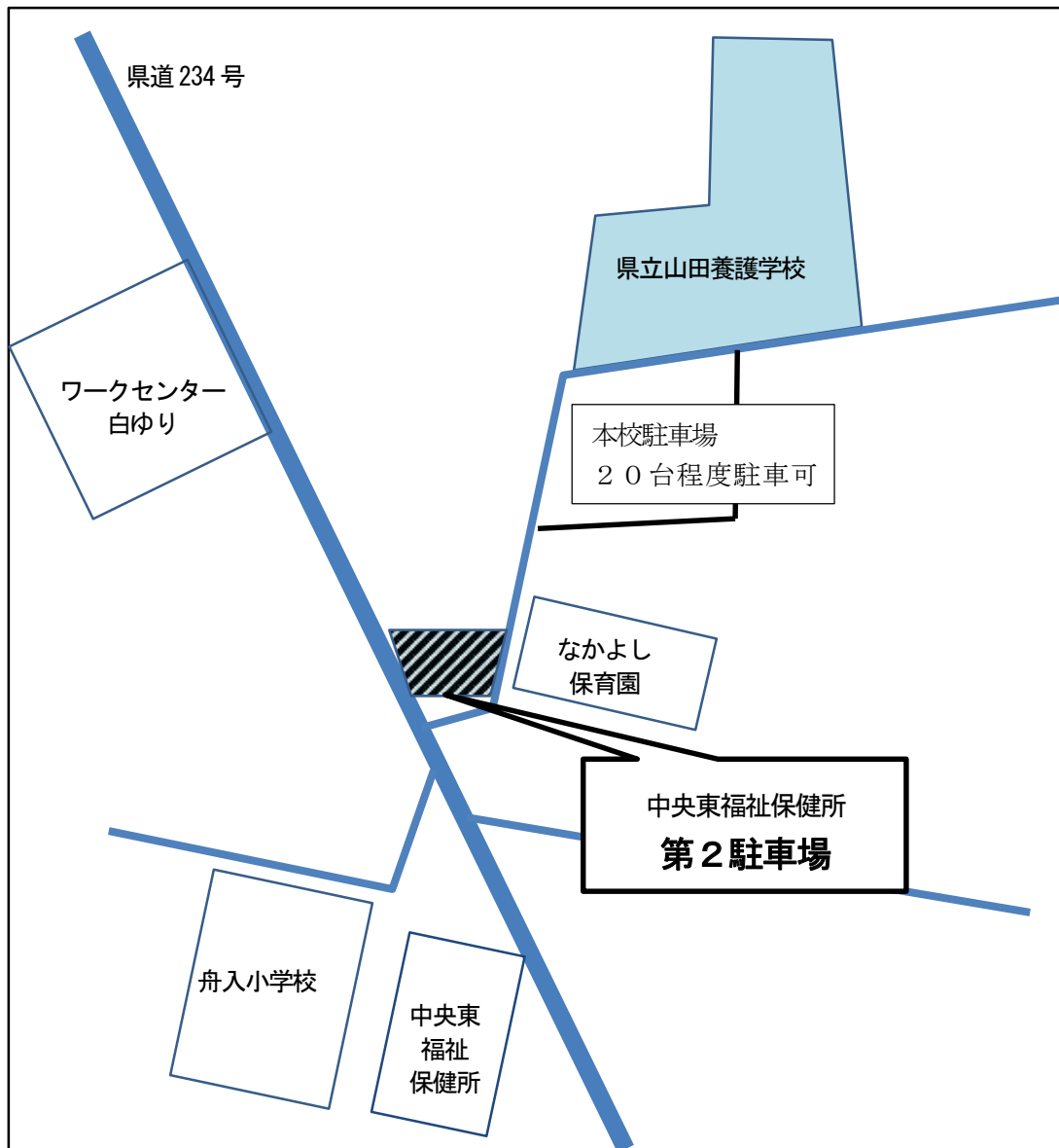
内 容	<広域福祉避難所の設置から運営まで> ① オリエンテーション、②シェイクアウト訓練、③情報伝達訓練、④福祉避難所設営訓練 ⑤福祉避難所運営訓練、⑥振り返り ※参加者の方にはスタッフと共に、福祉避難所内の各スペースの設営や避難者付添い人役、避難所運営スタッフ等の役割分担をし、実際に訓練に参加していただく場合があります。その場合は、事前にご連絡します。
日 時	平成 30 年 11 月 22 日 (木) 8:50 ~ 12:10 (8:50~9:10 受付)
場 所	高知県立山田養護学校 食堂棟 1 階 食堂及び2階 多目的ホール (香美市土佐山田町山田 1361)
参 加 者	山田養護学校児童生徒及び教職員、広域福祉避難所協定施設職員、市町村職員、社会福祉協議会職員、中央東福祉保健所職員、高知県実践的防災教育推進員会委員、香美市内小・中学校特別支援学級児童生徒、地域住民 等
参加申込方法	裏面の参加申込とりまとめ票に必要事項をご記入の上、FAX または郵送にて本校まで送付してください。 ♣ 住所：高知県香美市土佐山田町山田 1 3 6 1 番地 ♣ FAX：0887-52-0031 ♣ TEL：0887-52-2195 ※申し込み〆切：10月22日(月)
訓練に関する 問い合わせ先	担当者： 〒782-0016 高知県香美市土佐山田町山田 1 3 6 1 番地 TEL：0887-52-2195 FAX：0887-52-0031

【お知らせ】

本校では、広域福祉避難所開設・運営訓練と同時に体育館にて在校生の避難所受付訓練及び防災学習（体験学習）を行います。13:00～13:50までは体育館を開放していますので、ご都合のつく方は、自由にご参観ください。



《駐車場のご案内》



- ・ 駐車場には限りがありますので、同じご所属の場合はできる限りお車乗り合わせのうえお越しください。
- ・ 会場の駐車場には限りがあるため、中央東福祉保健所の第2駐車場の一部を確保していますので、ご利用ください。

FAX

別 紙

FAX 番号:0887-52-2195

高知県立山田養護学校 学校安全部 行

広域福祉避難所開設・運営訓練の申込み

所 属 名 : _____

連絡先 (Tel) : _____

《出席者名》

部署名	職 名	氏 名

★通信欄★（ 連絡事項等ございましたらご記入ください。 ）

締め切り：平成30年10月22日（月）までにご返信ください。

平成30年度 広域福祉避難所開設・運営訓練

平成30年11月22日(木)

高知県立山田養護学校

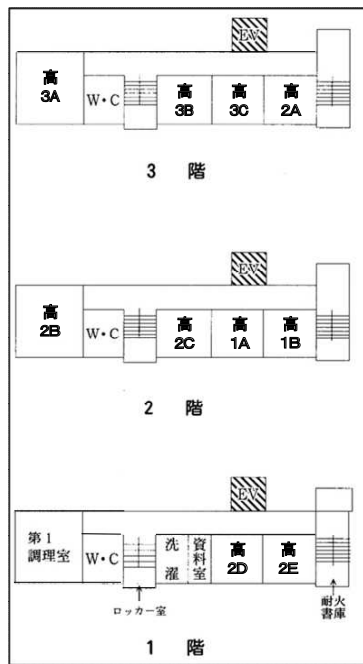
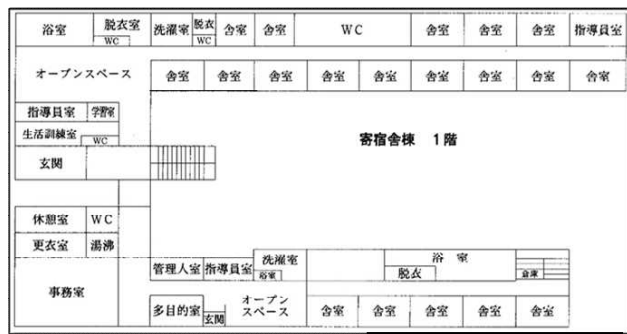
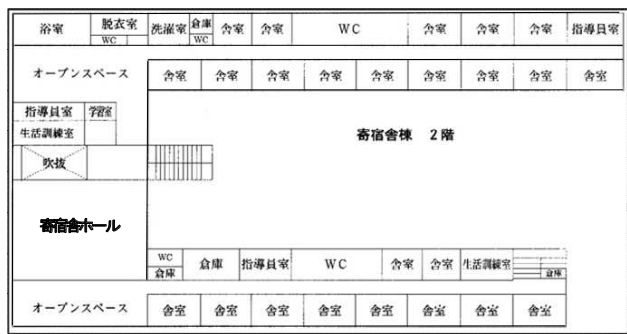
1. 本日の日程

- 8:50 受付開始…食堂前
- 9:10 開会式…本校食堂棟1F
- ・学校長挨拶
 - ・日程説明
 - ・諸注意
- 9:20 オリエンテーション、参加者への訓練内容説明
- ・食堂棟1F…受付班、誘導・調整班
 - ・食堂棟2F多目的ホール…設営班、統括者
- 9:30 緊急地震速報
- 9:35 情報伝達訓練開始(校長室)
- 9:40 要配慮者、付添人は食堂前に集合
- 9:50 広域福祉避難所開設訓練(施設受け入れ準備)…食堂棟1F, 2F多目的ホール
- | | |
|-------------|-------------|
| 食堂棟1F | 食堂棟2F多目的ホール |
| 受付…受付班 | 本部 …統括者 |
| 聞き取り…誘導・調整班 | 避難所 …設営班 |
- 10:00 広域福祉避難所運営訓練(要配慮者の受け入れ)…食堂棟1F, 2F多目的ホール
- 11:40 訓練終了、要配慮者及び付添人はアンケート記入後終了
- 設営班、受付班、誘導・調整班、統括者による振り返り…食堂棟2F多目的ホール
- ・アンケート用紙記入
 - ・評価者より(各班担当、全体)
 - ・参加者より
- 12:10 閉会式…食堂棟2F多目的ホール(参加者全員)
- ・学校長より
 - ・連絡
- 香美市福祉事務所、山田養護学校、中央東福祉保健所、防災教育実践委員以外の参加者は解散
- 12:20 担当者会…校長室
- ・香美市福祉事務所、山田養護学校、中央東福祉保健所、防災教育実践委員

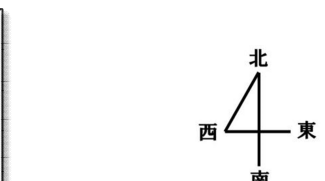
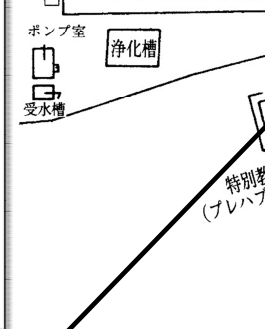
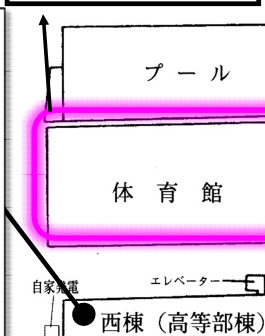
2. その他

- ①体育館でも本校児童生徒が訓練と防災体験学習を行っています。自由に参観してください。
- ②外部参加者による写真撮影はご遠慮ください。
- ③外部参加者は正面玄関からお入りください。近くに備え付けのビニール袋がありますので、靴を入れてご持参ください。

(平成30年度) 校内教室等配置図／高知県立山田養護学校



在校生の防災体験学習会場



広域福祉避難所訓練会場

寄宿舎棟

2F 多目的ホール
1F 食堂

北棟 (小学部棟)

管理棟 (管理・中学部棟)

特別教室北棟

特別教室南棟 (作業棟)

情報伝達訓練

外部参加者出入り口

玄関

校長室

保健室

事務室

印刷室

職員室

湯沸

休憩室(女)

休憩室(男)

WC

資料室

中2-3

中2-4

中1-2

高1D

高1C

生徒会室

中1-1

資料室

中1-1

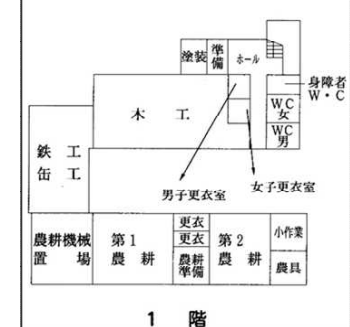
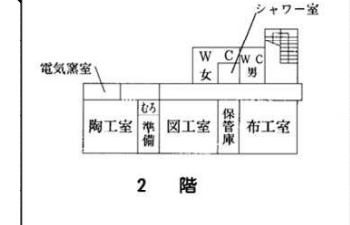
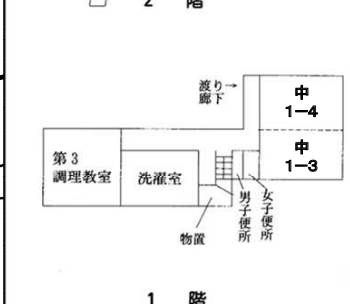
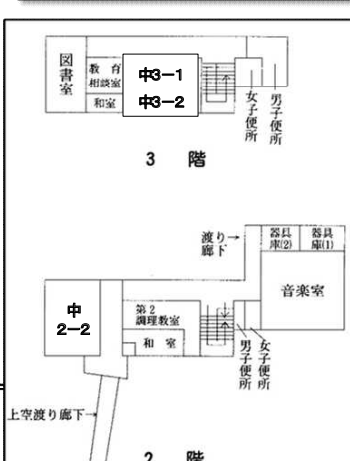
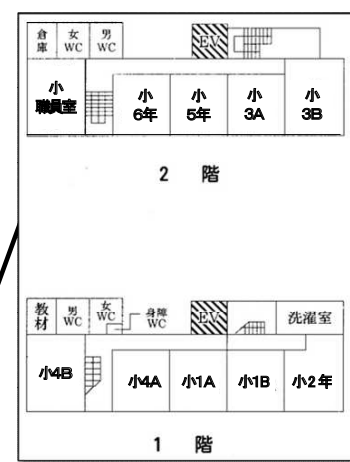
中1-1

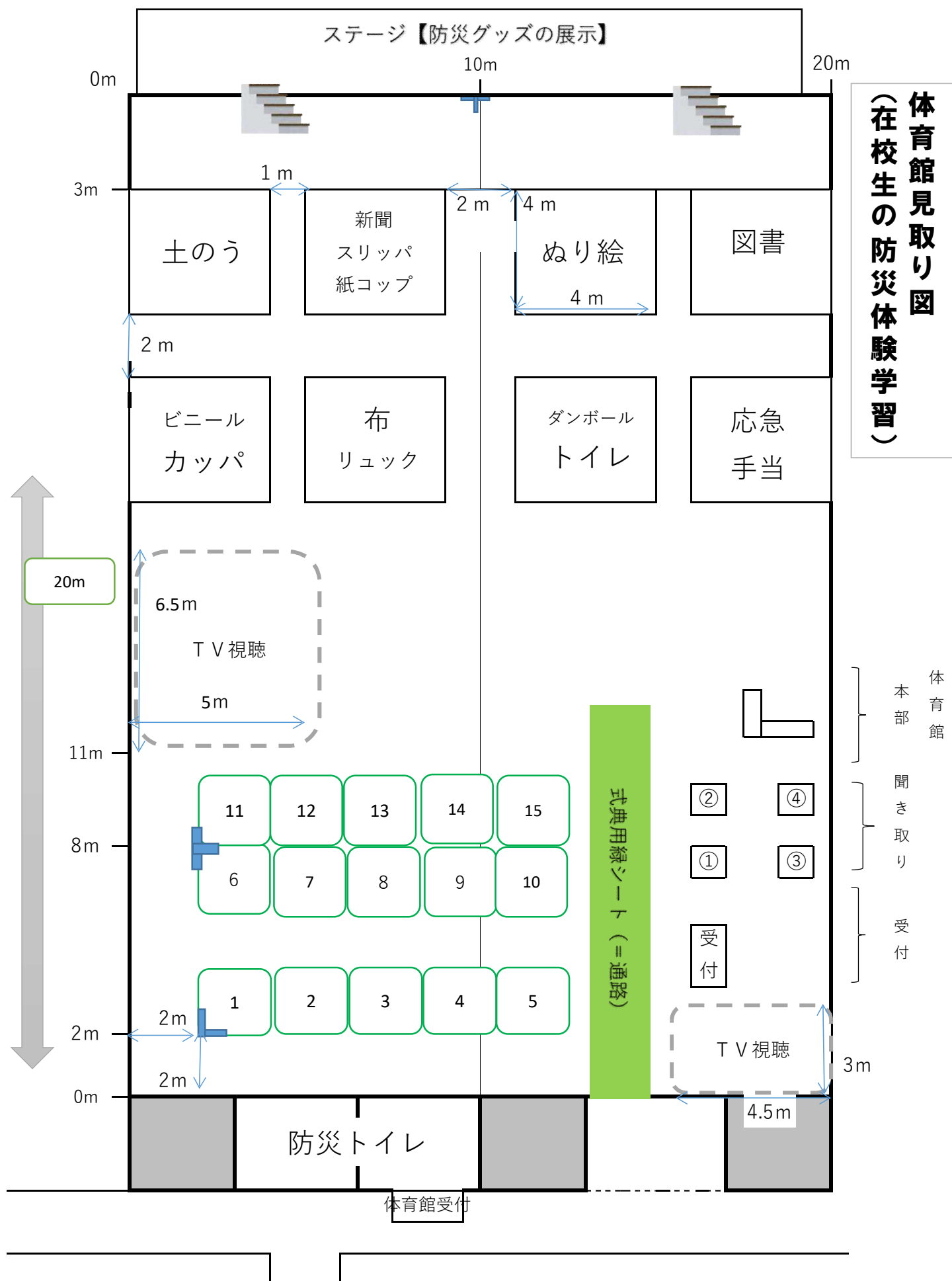
中1-1

中1-1

中1-1

中1-1





番号	市町村	所属	職名	氏名	役割
1	香美市	防災対策課	班長		評価者
2		かがみの育成園	課長		統括者
3		かがみの育成園	主任		受付班
4		かがみの育成園	主任		聞き取り
5		かがみの育成園	主任		誘導・調整班
6		かがみの育成園	主任		撮影・記録
7		障害者支援施設白ゆり	生活支援課長		統括者
8		障害者支援施設白ゆり	生活支援主任		誘導・調整班
9		障害者支援施設白ゆり	生活支援主任		聞き取り
10		障害者支援施設白ゆり	生活支援副主任		設営班
11		障害者支援施設白ゆり	生活支援副主任		設営班
12		ワークセンター白ゆり	生活支援課長		聞き取り
13		ワークセンター白ゆり	業務主任		受付班
14		ワークセンター第二白ゆり	生活支援主任		誘導・調整班
15		ワークセンター第二白ゆり	業務主任		設営班
16		共同生活援助事業所白ゆり	生活支援主任		撮影・記録
17		高知県立山田養護学校	副校長		統括者
18		高知県立山田養護学校	学校安全部教諭		誘導・調整班
19		高知県立山田養護学校	学校安全部教諭		設営班
20		高知県立山田養護学校	学校安全部教諭		受付班
21		高知県立山田養護学校	教諭		聞き取り
22		高知県立山田養護学校	教諭		誘導・調整班
23		香美市福祉事務所	社会福祉班長		評価者
24		香美市福祉事務所	社会福祉係長		
25		香美市福祉事務所	保護班長		
26		香美市福祉事務所	保護係長		
27		香美市福祉事務所	技幹		
28	安芸市	南海トラフ地震対策推進 安芸地域本部	地域防災企画鑑		
29		南海トラフ地震対策推進 安芸地域本部	地域防災総括員		
30		南海トラフ地震対策推進 安芸地域本部	主事		
31		南海トラフ地震対策推進 安芸地域本部	非常勤職員		
32		南海トラフ地震対策推進 安芸地域本部	非常勤職員		
33	香南市	香南市福祉事務所	係長		評価者
34		香南市福祉事務所	主任		
35	南国市	南国市福祉事務所	次長兼		
36		ウイッシュかがみの	課長		
37		南海学園	支援員		統括者
38		南海学園	支援員		聞き取り
39		南海学園	支援員		誘導・調整班
40		南海学園	支援員		設営班
41		南海学園	支援主任		撮影・記録
42	大豊町	大豊町役場住民課	主幹		
43	高知県	高知県中央東福祉保健所	室長		評価者
44		高知県中央東福祉保健所	チーフ		
45		高知県中央東福祉保健所	臨時		
46		高知県教育委員会事務局 学校安全対策課	指導主事		
47		高知県教育委員会事務局 特別支援課	指導主事		

役割

1 市本部

2 統括者・山田本部

高知県立山田養護学校	
南海学園	
障害者支援施設白ゆり	
かがみの育成園	

3 情報伝達係

4 受付班

高知県立山田養護学校	
かがみの育成園	
ワークセンター白ゆり	

5 (1) 誘導・調整班

高知県立山田養護学校	
かがみの育成園	
障害者支援施設白ゆり	
ワークセンター第二白ゆり	

5 (2) 聞き取り班

高知県立山田養護学校	
高知県立山田養護学校	
障害者支援施設白ゆり	
ワークセンター白ゆり	
かがみの育成園	
南海学園	

こう いき ふく し せつ えい くん れん
広域福祉設営訓練

ぼう さい たい けん がく しゅう
& 防災体験学習



ぼうさいたいけんの日

10月
 2018
 1 2 3 4 5 6
 7 8 9 10 11 12 13
 14 15 16 17 18 19 20
 21 22 23 24 25 26 27
 28 29 30 31

2018 **11**月
 平成30年

12月
 2018
 1 2 3 4 5 6 7 8
 9 10 11 12 13 14 15
 16 17 18 19 20 21 22
 23 24 25 26 27 28 29
 30 31

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	1

**広域福祉避難所設営訓練
Aグループ
(場所：多目的室)**



**●対象● Aグループ
広域福祉避難所設営訓練に参
加する人のいる学級**

小学部4学級(小2・3A・4B・6年)

中学部3学級 高等部2学級



Aグループのうごき

① 9:30シェイクアウト訓練(各教室)



② 9:35ボランティアや係の人が福祉避難所
開設準備(多目的室)



③ 9:50避難受付開始(多目的室)
(保護者、担任、級友と一緒に)



* 受付終了後、パーテーション内で待機、
避難対象者以外の級友は、その後体育館に行ってもよい

ぼうさいたいけん学習 Bグループ (場所：体育館)



●対象●Bグループ 広域福祉避難所設営訓練 に参加しない学級

小学部5学級(1A・1B・3B・4A・5年)

中学部9学級

高等部10学級



Bグループのうごき

①9:30 シェイクアウト訓練(各教室)



②9:35 ボランティアの人はすぐ体育館に来て
パーテーション設営後、係活動



③9:50～ 受付体験開始

前半 小中学部

後半 高等部



④9:50～ 防災体験コーナーを自由に回る



●受付体験は、前半が小中、後半が高等部です。

●学級の中で一人が練習します。級友は見守ってください。

●混雑のときは、空くまで、各ぼうさいコーナーをまわっていてかまいません。時間内に受付体験をすましてください。

ぼうさいたいけんコーナーをまわるとき、まもってください！！

●各コーナーは無人です。先生方は児童生徒から目をはなさないようにお願いします。

●つけたものは、かならずもとのばしょにもどしておいてください。

●はさみやカッターなどは必ず先生がつき、けがないようお願いします。

ぼうさいたいけん コーナー①から②③



①かくれたもじをさがそう

- ①そうごうあんないでカードをもらってください
- ②ぜんぶで4文字です。1文字ずつ体育館のどこかにかくれています。
- さがしあてて、カードに書いてください。
- ③4文字そろったら、カードに書いてそうごうあんないにもって行ってください。
- ④ハンコをもらって景品がもらえるよ。



①	②	③	④

②防災クイズ (初級・中級)



- ①体育館のあちこちに、防災クイズがあります。
- ②めくると、答えがあるよ。ちょうせんしてみよう。

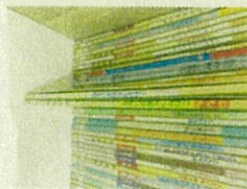
③としょコーナー

オーテピアから、ぼうさいの本や紙しばいを
かりています。

読み聞かせのボランティアさんもいます。

ゆっくり、べんきょうしてね。

* 読んだ本や紙芝居は必ずもとの場所にかた
づけてね。



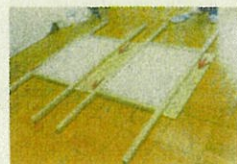
④テレビコーナー

- ①南海トラフ地震に備える
- ②発災から、避難所生活のドラマのビデオがあります。実際はどのようなになるのかベンきょうしてね。



⑤しんぶんスリッパ

- ①新聞スリッパは避難のさい、がれきを歩くのにべんりです。避難所生活でコップや保温にもなります。
- ②折り方を覚えて帰りましょう。大と小があるよ。
- ③家の非常持ち出し袋に新聞紙をぜひ入れて置こう。
- ④できたら、がれきに見立てた砂利の上を歩いてみよう。靴下とスリッパの状態でどちらが痛くないかくらべてみよう。



⑥ビニールカッパ

- フード付きの簡単なカッパです。
ごみぶくろ と はさみがあれば、すぐに作れます。
- 切るところは、マジックでせんをひいています。
- はさみをつかいます。けがのないように先生といっしょにきりましょう。
- 避難所生活や家の片付けに行くときなど、雨の時役立ちます。ぜひ、おぼえておこう。
- つくったカッパはもってかえってかまいません。



⑦布リュックサック

- はいきゅうされた、ペットボトルやおにぎりなど、はこぶのにべんりです。
- ぬのきれが2まいあればできます。ぬのは、救急のとき、ほうたいのかわりにもなります。
- できたら、ほどいてたたんでおいてください。



⑧こてい（ラップ、新聞、バンダナ）

①けがして、ほうたいなどがないときは、べんりです。

②ラップは丈夫で固定するのにべんりです。

ぜひ、やってみよう。

③日赤から先生がきて、バンダナこていの方法もおしえてくれます。救急法のしつもんなど、どんどんしてね。



⑨土砂災害コーナー

①ビー玉を土砂に見立てて、坂の上から落としてみよう。

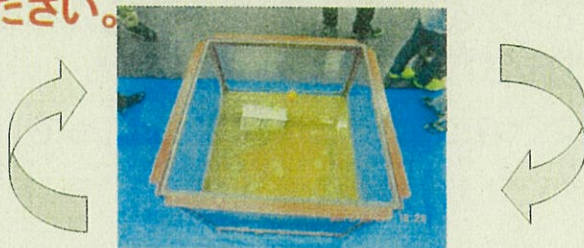
②たまった土砂が勢いを増し、ふもとの家や車をなぎ倒す様子がわかります。

③終わったら、ビー玉をケースに入れて次の人のために、もとの形にもどしておいてください。



⑩液状化実験

- ①水をふくんだ砂を上下左右にゆすります。
- ②地上の家がどんどんかたむき、土の中のマンホールがとびでてきます。
- ③じっけんが終わったら、水と土をまぜて、家やマンホールに見立てたピンポン玉をもとにもどしておいてください。



⑪ダンボールベット

- ①避難所生活でゆかは冷たく、よしんやほこうによる振動が直接伝わります。
- ②ダンボールをしきつめてベットにすると、あたたかく、いびきも小さくなります。
- ③3×8こをたてにならべるとすぐできます。組み立てて見てください。ほんばんは、ガムテープでこていします。
- ④ぜひ、寝てみてね。
- ⑤終わると、次の人のためバラバラにして積み上げて置いてください。



⑫キッチンペーパーマスク

- 避難所生活では、ほこりやばいきんからからだをまもらないといけません。
- マスクがないときは、キッチンペーパーとわごむで、すぐつくれます。ホッチキスはけがしないように先生といっしょにしましょう。
- マスクをして、ばいきんからからだをまもって、げんきにいきぬいてください。
- つくったマスクはもってかえってかまいません。



⑬どろう



- ①台風や豪雨で川がはんらんして、水位が上がり、家や道路がつかまりそうになったら、どろうをしいてまもります。
- ②くくりかたをおぼえておこう。
- ③ほんものは土をいれますが、今日は、軽くしています。
- ④くくって終わったら、次の人のためにほどいておいてください。

⑭ダンボールトイレ

- ①地震時はトイレがつかえません。一番こまります。
- ②家のトイレのべんざにビニール袋を2枚かぶせてつかいます。
- ③トイレがないときは、ダンボールでトイレをつくったり、土にあなをほったりします。
- ④一つ作って、家のトイレに置いておくと、災害時にべんりです。
- ⑤つくったトイレはもってかえってかまいません。カッターは先生としてください。けがしないように！！



⑮ぬりえ



- ①じしんたいさくたいやぼうさいグッズのぬりえがあります。
- ②じゆうにぬって、もってかえってください。



⑩かみざら

- チラシでつくるおさらです。
- じしんのときは、食器也没有せん。
- あらう水也没有せん。
- ビニールをしいて食べ、ビニールごとこうかんするとべんりです。
- つくったおさらはもってかえってかまいません。



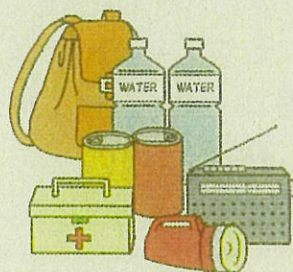
⑪ぼうさいすごろく

- ①5ねんせいがかんがえたもんだいです。
クイズにこたえながらすすみます。
- ②みんながゴールしたとき、アイテムをいちばんたくさんゲットしている人がかちです。
- ③みんなでやってみよう。
- ④おわったら、もとにもどしておいてね。



⑱防災えあわせカード

- 同じえあわせカードが2つずつあります。
- しんけいすいじゃくのようにえあわせゲームをしてあそんでみてね。
- いくつしているかな。
- おわったら、もとにもどしておいてね。



⑲防災トランプ

- 5ねんせいが、つくりました。
- ふつうのトランプと、おなじように、しんけいすいじゃくやばばぬきなどで、あそんでみてください。



②0防災グッズ てんじ中

- ステージの上には、ぼうさいのグッズをたくさんてんじしています。
- じゅうでんしきラジオやひじょう食など、おいてますのでみてください。みんなも同じものをもっているかな。
- レバーをまわして、かい中電灯をつけてみてね。
- ペットボトルランタンもあるよ。

* つかったら、もとにもどしておいてね。



マナーをまもって、けがのないよう、ぼうさいをまなんでください。



たいけんがくしゅうは午前中でおわりです。なお、ごご2じまでてんじしています。おわっていない人はおひるからでもどうぞ。

家庭への啓発（アプローチ）事例

・防災教育だよりの発行

<ポイント>

★「防災教育だより」で、学校での防災教育における学習内容を家庭に知らせることにより、保護者の防災意識を高め、家庭の防災対策（備え）への啓発につながります。また、児童生徒の防災学習の頑張りを伝えることになります。

防災ニュース

2022.7.19
山田特別
支援学校
学校安全部

学校・家庭・地域をつなぐ連絡システム 「すぐる」の活用を！

本校では、令和四年から「学校」と「家庭」、「地域」をつなぐ連絡システム『すぐる』を導入しています。

学校への欠席連絡だけでなく、学校での取り組みや、アンケートや学校、PTAからの情報を受け取ることができます。それだけでなく、地震、火災が起きた際の安否確認、台風等における緊急時の連絡や、不審者情報など、防災に関する情報が「すぐる」で確認ができます。

また、タイムラインにて、日々の子どもたち学習の取り組みの様子を、随時更新しておりますので、是非、ご覧になり、ご活用ください。

広域福祉避難所について 避難所と福祉避難所って何が違うの？

本校は平成二十五年に香美市と協定を結び、災害時には広域福祉避難所として開設するようになっています。

広域福祉避難所とは、避難行動要支援者が避難生活をするための、特別な配慮がなされた避難所です。

一般の避難所の多くは公民館や学校施設が指定されており、災害の危険がなくなるまで必要期間滞在することを想定した施設です。本校以外にも福祉避難所がありますので、ぜひ一度自宅近辺の福祉避難所を探索してみてください。

山田特別支援学校近辺のハザードマップについて

※学校付近は想定では安全圏ですが、あくまで想定です。

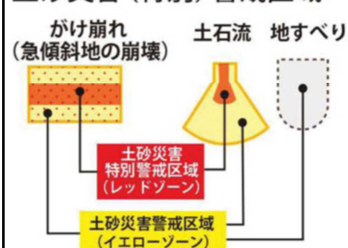
洪水浸水想定区域



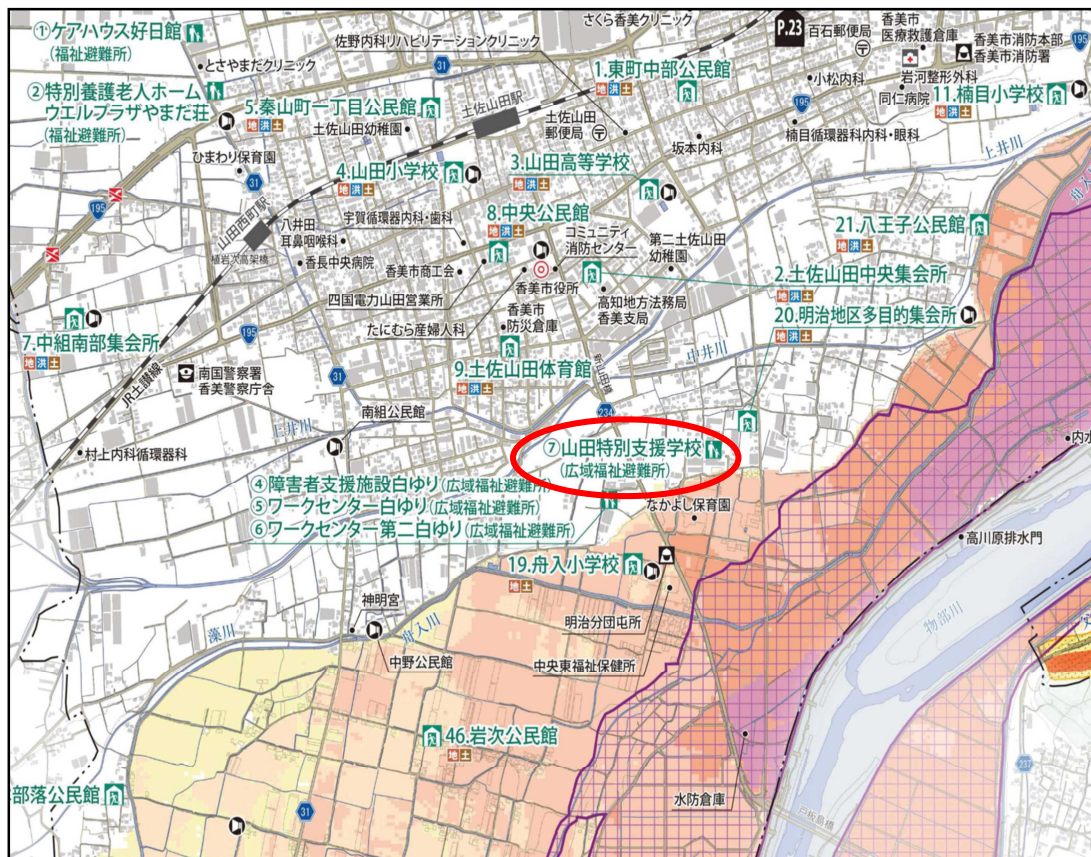
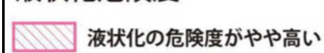
家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される区域

土砂災害（特別）警戒区域



液状化危険度



ハザードマップはあくまで目安であり、そのほかの対策と組み合わせることが重要になってきます。

高知県の学校防災マニュアルについては高知県庁のホームページよりご覧いただけます。

この機会に、ご自宅付近のハザードマップも調べてみてください。

事 例

千葉県立東金特別支援学校

(ホームページより抜粋)



あたりまえ防災隊通信

東金特別支援学校
令和4年1月21日
第8号

今年もよろしくお願いします！

2022年も「東金特別支援学校を日本一安全な学校に、東金市を日本一安全な町に」をモットーに、防災・減災について広めることができるように活動していきます。さて、前号でご紹介した「ぼうさい甲子園」が開催されるきっかけとなった阪神淡路大震災から27年が経ちました。被害者の多くの原因が家屋・家具の倒壊、火災が原因であったと言われています。そこで、今号ではご家庭でできる地震対策についてご紹介します。

<あたりまえ防災隊おすすめの地震対策「家具編」>

大地震が発生したときには「家具は必ず倒れるもの」と考えて、転倒防止対策を講じておく必要があります。



- 家具の固定・・・壁にタンスや本棚などを固定することで転倒を防ぐことができます。壁に直接固定できない場合、突っ張り棒等の対策グッズも市販されておりますので、是非確認してみてください。
- 家具の配置・・・寝室や子ども部屋には、大きい家具を置くのは避けましょう。置く場合は、背の低い家具を置くようにしましょう。また、倒れた際に、通路等をふさぐことのないように、置く位置や向きを工夫しましょう。

<あたりまえ防災隊おすすめの地震対策「火災編」>

東日本大震災における本震の揺れによる火災では、原因の特定されたもののうち過半数が電気に起因したものであったそうです。火の元の確認も忘れずに！



- 通電火災の予防・・・停電し、電気が復旧した後に起きる「通電火災」。電化製品も可能な物は固定できると良いです。また、避難時には、ブレーカーを落としてから避難するようにしましょう。
- コンセント火災・・・コンセントの電気の許容量を超えて電気器具を使用するとコンセントが過熱し、火災になることがあります。「たこ足配線」は、控えるようにしましょう。

家庭でできる災害への備えについて紹介しています。

地震はいつくるかわかりません。
いざという時に、落ち着いて行動できるように
備えておきましょう。

児童生徒(あたりまえ防災隊)からの呼びかけは、保護者への強いアピールとなります。



あたりまえ防災隊通信

東金特別支援学校
令和3年11月26日
第6号

「備えてますか？冬の防災グッズ」

11月に入り、気温の低い日が続いております。皆様いかがお過ごしでしょうか。

「災害はいつ起こるか分からない」と本通信でも呼びかけさせていただいてきました。今後寒さが一層厳しくなっていく中で、災害が発生した場合、寒さによる二次災害が起きないように、本号では、冬期の備蓄品についてご紹介させていただきます。

～備蓄品についてみんなで考え調べました～



季節に合わせて備えよう！

冬の防災グッズ

- | | |
|-----------|-----------|
| ○折りたたみ毛布 | ○湯たんぽ |
| ○保温寝袋 | ○充電式カイロ |
| ○新聞紙 | ○フランクット |
| ○保温クリーム | ○マスク |
| ○厚手の靴下 軍手 | ○簡易トイレ など |

季節に応じた
防災グッズの
紹介をしてい
ます。

季節に合わせて備蓄品を備えましょう。
ご家族で相談してみてください！

児童生徒(あたりまえ防災隊)
からの呼びかけは、保護者へ
の強いアピールとなります。



あたりまえ防災隊通信

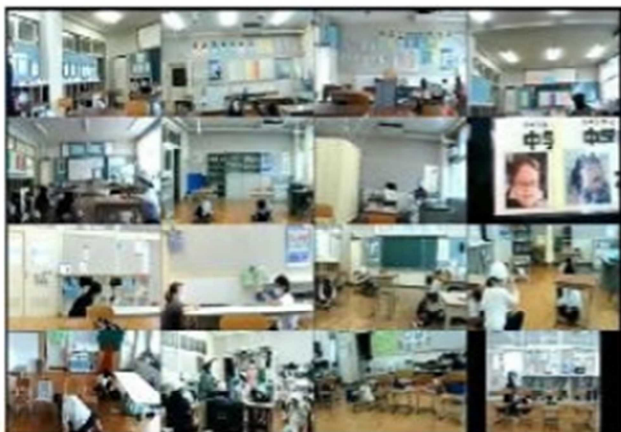
東金特別支援学校
令和3年9月24日
第4号

9月は学校安全強化月間です！

長いようであつという間に終わってしまった夏休み。皆さんは、安全に過ごすことができたでしょうか。
本校では、9月1日に「東金市合同シェイクアウト訓練」に全校で参加しましたので、その様子をお伝えします。2学期も安全に過ごすことができるようあたりまえ防災隊が全校に呼びかけていきます。
さて、近年全国で増えてきている豪雨災害や土砂災害。この夏も7月の伊豆山土砂災害や広島県での災害級の大雨など多くの被害が出ました。そこで今回は、大雨の原因の一つである「線状降水帯」や大雨の際に発表される「大雨特別警報」についてご紹介します。

東金市合同シェイクアウト訓練の様子

感染症対策のため、web会議システムを活用して各学級で訓練に参加しました。



画面越しの各学級の避難の様子



安全を全校に呼びかける防災隊長と
話を聞く全校児童生徒

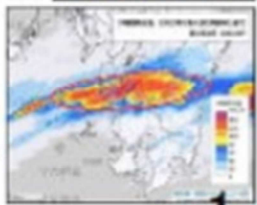


訓練の様子を
紹介しています。

僕たちの町に、いつ大雨特別警報がでるかわからないので、
ハザードマップで避難経路の確認をしようとして、
ニュースや天気をこまめに確認しよう。

線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたって通過または停滞することで作られる、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をとまなう雨域のこと。



大雨特別警報とは

「特別警報」とは、警報の発表基準をはるかに超える大雨や、大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれが高く高まっている場合に発表し、最警戒を呼びかけるもの。

児童生徒（あたりまえ防災隊）からの呼びかけは、保護者への強いアピールとなります。



あたりまえ防災隊通信

東金特別支援学校
令和3年7月9日
第3号

全校での避難訓練実施！

6月23日（水）に、地震・火災を想定した避難訓練を行いました。全校児童生徒全員、友達や教師と一緒に指定された避難場所へ避難することができました。また、避難訓練後には、私たち「あたりまえ防災隊」が中心となって避難時の約束事「お・か・し・も・ち」を確認しました。



家庭でも知っておいてもらいたいことを紹介しています。

避難時の約束事

- ①・・・おさない
- ②・・・かけない
- ③・・・しゃべらない
- ④・・・もどらない
- ⑤・・・ちらばらない

避難の種類

- 一次避難** 災害等が発生した際に、1秒でも早く身を守る行動を取ること。
例：机の下に入る など
- 二次避難** その場付近の安全が確認できたら、避難場所・避難所へ避難すること。
- 自宅避難** 自宅の安全が確認されたら、自宅へ避難すること。

ヘルメットやハンカチ、タオルを備えておきましょう。
自分の身は自分で守りましょう。

学習内容を
紹介しています。



児童生徒（あたりまえ防災隊）からの呼びかけは、保護者への強いアピールとなります。



あたいまえ防災隊通信

東金特別支援学校
令和3年6月18日
第2号

梅雨の時期に入りました

千葉県も梅雨入りし、ジメジメとした日が続いています。また、ゲリラ豪雨や災害級の大
雨、土砂災害がいつ起きてしまうかわかりません。災害が起こる前に、自宅付近の避難場所・
避難所の確認や備蓄品等についてご家庭で話し合ってみるのは、いかがでしょうか。

避難場所と避難所の違い

- ・「避難場所」
災害などから身を守るため、**一時的**に逃げ込む先。
例) 河川敷や大きい公園など、広いスペースが指定される。
- ・「避難所」
災害のため自宅で過ごすことが困難になった時、**一定の期間**、避難生活をする場所。
例) 学校や公民館などが割り当てられる。



家庭でも知って
おいてもらいた
いことを紹介し
ています。

推奨されている備蓄品

- | | |
|--------------|------------------|
| ○非常食 3日分×人数分 | ○ティッシュ、トイレットペーパー |
| ○飲料水 | ○カセットコンロ |
| ○モバイルバッテリー | ○服薬している薬、マスク |
| ○トイレットペーパー | ○ガムテープ、ひも など |

いついかなる災害が起こるか、わからないので
備蓄品や避難場所を確認しましょう！

～備蓄品について調べている様子～



学習の様子を
紹介しています。

児童生徒(あたいまえ防災隊)
からの呼びかけは、保護者へ
の強いアピールとなります。

家庭への啓発（アプローチ）事例

・家庭での防災対策（備え）

<ポイント>

★例えば、保護者にアンケートを実施することにより、家庭の防災の取組状況に応じた学習を計画することができます。また、アンケートの保護者の回答内容の変容を見取ることにより、防災教育の効果を検証することもできます。

地震・津波対策に関するアンケート（保護者用）

下記の設問について、該当する箇所に○をつけてください。その他の事項については、具体的にご記入ください。

所属学部	小学部 ・ 中学部 ・ 高等部		
記入者	父 ・ 母 ・ 祖父 ・ 祖母 ・ その他（ ）		
項 目			
問 1	家族や身近な人と、災害が起きた時に安否確認方法について話し合いましたか。	（ 1 ）	① はい ② いいえ
※複数回答可		（ 2 ） ①と答えた方は、その方法をお答えください。	① 171 災害用伝言ダイヤルで無事を知らせる。 ② ケータイ災害用伝言板サービスで無事を知らせる。 ③ 遠くの親戚や知人を中継役と決め、そこに連絡する。 ④ 勤め先の安否確認システムを利用する。 ⑤ その他（ ）
問 2	自宅以外の場所へ避難しなければならぬ事態に備えた対策ができましたか。	① 避難場所の位置を確認した。 ② 家族が落ち合う場所を決めた。 ③ 家族との連絡方法を決めた。 ④ 実際に避難場所まで行き、避難経路も確認した。 ⑤ その他（ ） ⑥ 特に何もしていない。	
※複数回答可			
問 3	地震に備えて自宅では、どのような準備をしましたか。	① 避難持ち出し袋を用意した。 ② 枕元に靴やヘルメットを常備した。 ③ 食糧・飲料水を準備した。 ④ 家具等を固定し、転倒を防止した。 ⑤ 耐震補強工事をした。 ⑥ 窓ガラスには、飛散防止フィルムを貼った。 ⑦ 非常用トイレを準備した。 ⑧ その他（ ） ⑨ 特に何もしていない。	
※複数回答可			
問 4	外出中の被災に備えて携帯しているものがありますか。	① 身元や血液型、連絡先等を記したカード（ヘルプカード） ② マスクやハンカチ ③ かかりつけの病院の診察券、お薬手帳 ④ ポケットラジオ ⑤ メモ帳、筆記具 ⑥ ペットボトルの水やチョコレートなど ⑦ 笛 ⑧ その他（ ） ⑨ 特に用意していない。	
※複数回答可			

※ 裏面のアンケートにもお答えください。

問 5 ※複数回答可	地域の防災訓練やイベントに参加しましたか。	① 町内会や自治会が主催する防災訓練 ② 防災の日・防災週間のイベント ③ 国・都道府県・市町村の主催する防災訓練 ④ その他 () ⑤ 特に参加していない。
問 6 ※複数回答可	あなたは、今 地震が起きたらどのような行動をとりますか。	① 身を守る。 ② 地震や津波情報を聞く。 ③ 高い場所に避難する。 ④ その他 () ⑤ あわてず、自宅に留まる。
問 7	本校が広域福祉避難所（大豊町、香美市、南国市、香南市）に指定されていることを知っていますか。	① 知っている。 ② 知らなかった。
問 8	あなたのご家族は、休日に被災した場合、本校への避難を希望しますか。	① 希望する。 ② 希望しない。 理由 () その時にならないとわからない。
問 9 ※複数回答可	スクールバスの乗車中に被災した場合、あなたはどのようにして子どもの安全を確認しますか。	① 学校に問い合わせて安否の確認を行う。 ② 津波警報が治まるまで待ち、地震発生時刻とスクールバスの運行時刻を把握し、最寄りの避難場所を探しに行く。 ③ 常にヘルプカード（緊急時連絡カード）を持たせ、連絡を待つ。 ④ その他 ()
問 10 ※複数回答可	あなたは、教職員と合同で実施する防災研修には、どのようなものがあると思いますか。	① 救急法 ② マニュアルの周知 ③ 非常食の試食会 ④ 炊き出し ⑤ 引き渡し訓練 ⑥ スクールバスの避難訓練 ⑦ その他 ()

ご協力いただき、ありがとうございました。

家庭への啓発（アプローチ）事例

・「ヘルプカード」携帯の提案

<ポイント>

★災害後の混乱の中で、障害のある児童生徒が適切な支援や安否確認を円滑に受けるために、あらかじめ必要な支援の内容を書いておくものが「ヘルプカード」です。この「ヘルプカード」の活用を保護者に紹介したり、PTAで情報提供したりすることも、災害時には有効に働きます。

【資料】 ※「高知県学校防災マニュアル作成の手引き」より抜粋

ヘルプカードについて

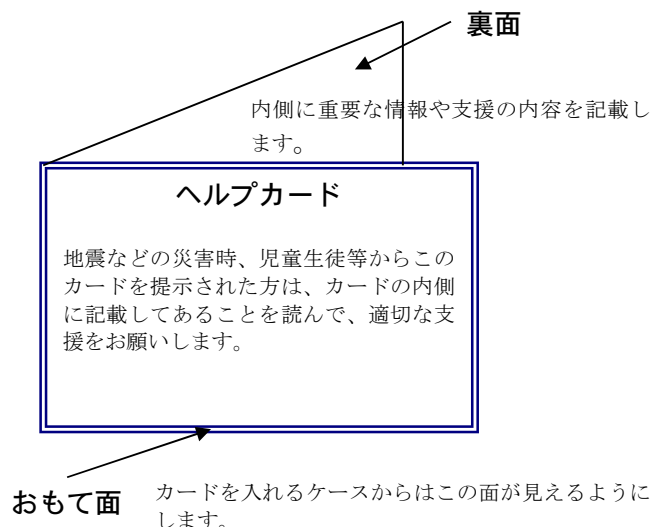
ヘルプカードとは

地震はいつ発生するかわかりません。地震後の混乱の中で障害のある児童生徒等が適切な支援を得るためには、本人に関する正確な情報が重要なポイントになります。いざという時の適切な支援や、安否の確認が円滑にできるようにするために、あらかじめ受けたい支援の内容などについて書いておくものがヘルプカードです。

作成・使用の際の注意事項

ヘルプカードは個人に関する情報がたくさん記載されます。そのため、児童生徒等に携帯させる際は、個人情報の保護に十分配慮することが必要です。具体的には、カードを二つ折りや三つ折り等の状態にし、カードの内側に必要な事項を記載するなどの工夫が必要です。その際、カードを提示された一般市民の方々が、カードの内側に必要な事項が記載されていることが見て分かるようにすることも必要です。

また、個人情報の保護の観点から、記載事項は命を守るために必要な最小限の情報に絞り込むことも必要です。



携帯の方法は個人の特性に応じて

ヘルプカードをどのように携帯するかは、児童生徒等の特性に応じて工夫します。首に掛ける、ポケットに入れる、カバンに入れる、など児童生徒等が一番携帯しやすく、しかも、もしもの時に確実にヘルプカードを提示できる方法を検討することが必要です。



記載内容の検討

ヘルプカードに記載する内容は、保護者や本人と十分に話し合って決める必要があります。障害や疾患が本人に告知されていないなど、扱いに配慮を必要とする場合もあります。

また、必要な情報を、支援する人に確実に伝えることは必要ですが、文章の表現は児童生徒等の年齢なども考慮し、本人の自尊心を大切にしたい表現になるよう、関係者で話し合って決めることも必要です。